

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジンジュンテンドウ 学校法人順天堂							
フリガナ大学の名称	ジュンテンドウダイガク 順天堂大学							
大学本部の位置	東京都文京区本郷2丁目1番1号							
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、医学、スポーツ健康科学、看護学、国際教養学、理学療法学、放射線技術学、臨床検査学、臨床工学、健康データサイエンス学及び薬学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	学是「仁」の精神に基づき、薬学に関する多角的な視点、専門知識及び技能を修得し、臨床実践能力と研究マインドを兼ね備え、健康・福祉の向上に貢献できる人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	薬学部	年	人	年次人	人		年月第年次	千葉県浦安市日の出6丁目8-1 同上
	薬学科	6	180	-	1080	学士（薬学）	令和6年4月第1年次	
	計		180		1080			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	大学院国際教養学研究科修士課程（令和5年3月認可申請） 国際教養学専攻（5） 保健看護学部看護学科〔定員増〕（30）（令和5年3月認可申請）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	薬学部薬学科	88科目	24科目	20科目	132科目	193単位		

教	学部等の名称		専任教員等					兼任	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	教員等
新	薬学部 薬学科	人	人	人	人	人	人	人	
		19 (17)	19 (16)	7 (6)	7 (5)	52 (44)	0 (0)	25 (7)	
設	計	19 (17)	19 (16)	7 (6)	7 (5)	52 (44)	0 (0)	— —	
		—	—	—	—	—	—	—	
員	組	医学部 医学科	210 (210)	470 (470)	16 (16)	416 (416)	1,112 (1,112)	469 (469)	172 (172)
		スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	21 (21)	37 (37)	0 (0)	17 (17)	75 (75)	3 (3)	51 (51)
		医療看護学部 看護学科	13 (13)	28 (28)	2 (2)	25 (25)	68 (68)	1 (1)	146 (146)
		保健看護学部 看護学科	13 (13)	11 (11)	7 (7)	6 (6)	37 (37)	2 (2)	138 (138)
		国際教養学部 国際教養学科	12 (12)	16 (16)	4 (4)	3 (3)	35 (35)	0 (0)	88 (88)
		保健医療学部 理学療法学科	6 (6)	7 (7)	1 (1)	6 (6)	20 (20)	0 (0)	63 (63)
		保健医療学部 診療放射線学科	7 (7)	6 (6)	3 (3)	3 (3)	19 (19)	3 (3)	56 (56)
		医療科学部 臨床検査学科	8 (8)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	15 (15)	0 (0)	36 (36)
		医療科学部 臨床工学科	5 (5)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	45 (45)
		健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科	8 (7)	5 (5)	1 (1)	4 (4)	18 (17)	0 (0)	57 (13)
既	設	計	303 (302)	586 (586)	38 (38)	485 (485)	1,412 (1,411)	478 (478)	— —
		合計	322 (319)	605 (602)	45 (44)	492 (490)	1,464 (1,455)	478 (478)	— —
概	要	職 種	専 任		兼 任		計		
		事 務 職 員	790人 (790)		935人 (935)		1,725人 (1,725)		
		技 術 職 員	40 (40)		254 (254)		294 (294)		
		図 書 館 専 門 職 員	8 (8)		6 (6)		14 (14)		
		そ の 他 の 職 員	5,297 (5,297)		735 (735)		6,032 (6,032)		
教員以外の職員の概要	要	計	6,135 (6,135)		1,930 (1,930)		8,065 (8,065)		
		大学全体	6,135 (6,135)		1,930 (1,930)		8,065 (8,065)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	173,394 m ²	0 m ²	0 m ²	173,394 m ²					
	運 動 場 用 地	142,366 m ²	0 m ²	0 m ²	142,366 m ²					
	小 計	315,759 m ²	0 m ²	0 m ²	315,759 m ²					
	そ の 他	141,497 m ²	0 m ²	0 m ²	141,497 m ²					
	合 計	457,256 m ²	0 m ²	0 m ²	457,256 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		171,003 m ² (154,845 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	171,003 m ² (154,845 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	139 室	188 室	260 室	7 室 (補助職員0名)	5 室 (補助職員0名)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		薬学部		41 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 299,392冊 〔105,029冊〕 学術雑誌 5,385種 〔2,007種〕 電子ジャーナル 44,614誌 〔42,961誌〕 視聴覚資料 3,829点		
	薬学部	660 [77] (230 [25])	16 [0] (16 [0])	0 [0] (0 [0])	0 0	12,868 (2,140)	0 0			
	計	660 [77] (230 [25])	16 [0] (16 [0])	0 [0] (0 [0])	0 0	12,868 (2,140)	0 0			
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		3,818 m ²		893		323,967				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		17,386m ²		柔道場 1室		剣道場 1室		大学全体		
				テニスコート 14面		サッカー場 1面				
				ラグビー場 1面		陸上競技場 1面				
				室内プール 1面		野球場 1面				
				ゴルフ練習場 1面		投てき場 1面				
				フットサルコート 2面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費（運用コ ストを含む）を 含む。	
	経 費 の 見 積 り	教員 1 人当たり 研究費等	/	300千円	300千円	300千円	300千円	300千円		300千円
		共同研究費等	/	12,000千円	12,000千円	12,000千円	12,000千円	12,000千円		12,000千円
		図書購入費	3,506千円	3,406千円	3,088千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
		設備購入費	881,696千円	1,127,600千円	612,813千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
2,300千円		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、事業収入、補助金収入等の一部を充当する							

既設大学等の状況	大学の名称	順天堂大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
	大学院 医学研究科 医科学専攻 (修士課程)	2	60	—	120	修士 (医科学)	1.45	平成25年度	東京都文京区本郷2丁目1番1号	
	大学院 医学研究科 医学専攻 (博士課程)	4	180	—	720	博士 (医学)	1.00	昭和34年度	同上	
	大学院 スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 (博士前期課程)	2	61	—	122	修士 (スポーツ健康科学)	1.04	平成9年度	千葉県印西市平賀学園台1丁目1番地	
	大学院 スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (スポーツ健康科学)	1.56	平成12年度	同上	
	大学院 医療看護学研究科 看護学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	58	修士 (看護学)	1.12	平成19年度	千葉県浦安市高洲2丁目5番1号	
	大学院 医療看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	34	博士 (看護学)	1.00	平成26年度	同上	※看護学専攻(博士課程)令和4年度入学定員増(2人)
	大学院 保健医療学研究科 理学療法学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (理学療法学)	—	令和5年度	東京都文京区本郷2丁目1番1号	※理学療法学専攻(修士課程)令和5年度開設(5人)
	大学院 保健医療学研究科 診療放射線学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (診療放射線学)	—	令和5年度	同上	※診療放射線学専攻(修士課程)令和5年度開設(5人)
	医学部 医学科	6	140	—	829	学士 (医学)	1.00	昭和27年度	同上	※医学部医学科令和2年度入学定員減(5人)令和3年度入学定員増(1人)令和4年度入学定員増(2人)令和5年度入学定員増(2人)
	スポーツ健康科学部						1.02		千葉県印西市平賀学園台1丁目1番地	
	スポーツ健康科学科	4	600	—	1800	学士 (スポーツ健康科学)	1.02	令和3年度	同上	※スポーツ健康科学科令和3年度開設(600人)
	スポーツ科学科	4	—	—	—	学士 (スポーツ科学)	—	平成5年度	同上	※スポーツ科学科令和3年度より学生募集停止
	スポーツマネジメント学科	4	—	—	—	学士 (スポーツマネジメント学)	—	平成5年度	同上	※スポーツマネジメント学科令和3年度より学生募集停止
	健康学科	4	—	—	—	学士 (健康学)	—	平成5年度	同上	※健康学科令和3年度より学生募集停止
	医療看護学部 看護学科	4	220	—	840	学士 (看護学)	0.99	平成16年度	千葉県浦安市高洲2丁目5番1号	※医療看護学部令和4年度入学定員増(20人)
	保健看護学部 看護学科	4	130	—	500	学士 (看護学)	1.03	平成22年度	静岡県三島市大宮町3丁目7番33号	※保健看護学部令和4年度入学定員増(10人)
	国際教養学部 国際教養学科	4	240	—	960	学士 (国際教養学)	0.98	平成27年度	東京都文京区本郷2丁目1番1号	
	保健医療学部 理学療法学科	4	120	—	480	学士 (理学療法学)	1.00	平成31年度	同上	
	診療放射線学科	4	120	—	480	学士 (放射線技術学)	0.99	平成31年度	同上	

医療科学部					1.01		千葉県浦安市日の出6丁目8-1	※医療科学部令和4年度開設
臨床検査学科	4	110	—	220	1.01	令和4年度	同上	※臨床検査学科令和4年度開設(110人)
臨床工学科	4	70	—	140	1.00	令和4年度	同上	※臨床工学科令和4年度開設(70人)
健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科	4	100	—	100	—	令和5年度	同上	※健康データサイエンス学部令和5年度開設(100人)
附属施設の概要	<p>1 順天堂大学医学部附属順天堂医院 (目的) 医療活動 (所在地) 東京都文京区本郷3丁目1番3号 (設置年月) 明治6年2月 (病床数) 1,051床 (規模等) 土地: 17,321.88㎡ 建物: 118,988.80㎡</p> <p>2 順天堂大学医学部附属静岡病院 (目的) 医療活動 (所在地) 静岡県伊豆の国市長岡1129番地 (設置年月) 昭和42年4月 (病床数) 633床 (規模等) 土地: 52,190.19㎡ 建物: 83,470.13㎡</p> <p>3 順天堂大学医学部附属浦安病院 (目的) 医療活動 (所在地) 千葉県浦安市富岡2丁目1番1号 (設置年月) 昭和59年5月 (病床数) 785床 (規模等) 土地: 32,916.03㎡ 建物: 68,642.42㎡</p> <p>4 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 (目的) 医療活動 (所在地) 埼玉県越谷市袋山560番地 (設置年月) 平成元年4月 (病床数) 226床 (規模等) 土地: 16,946.69㎡ 建物: 6,523.92㎡</p> <p>5 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター (目的) 医療活動 (所在地) 東京都江東区新砂3丁目3番20号 (設置年月) 平成14年6月 (病床数) 404床 (規模等) 土地: 3,655.21㎡ 建物: 35,131.36㎡</p> <p>6 順天堂大学医学部附属練馬病院 (目的) 医療活動 (所在地) 東京都練馬区高野台3丁目1番10号 (設置年月) 平成17年7月 (病床数) 490床 (規模等) 土地: 17,900.18㎡ 建物: 40,954.03㎡</p> <p>7 さくらキャンパス体育館(第1,第2,OGAWA GYMNASTICS ARENA) (目的) 教育研究施設 (所在地) 千葉県印西市平賀学園台1丁目1番地 (設置年月) 第1体育館 昭和63年4月 第2体育館 平成4年4月 OGAWA GYMNASTICS ARENA 平成29年4月 (規模等) 第1体育館 7,332.28㎡ 延床面積 第2体育館 1,249.15㎡ OGAWA GYMNASTICS ARENA 3,515.87㎡ 合計 12,097.30㎡</p> <p>8 浦安・日の出キャンパス薬用植物園 (目的) 教育研究施設 (所在地) 千葉県浦安市日の出6丁目8-1 (設置年月) 令和7年3月(予定) (規模等) 889.60㎡</p>							

教 育 課 程 等 の 概 要

(薬学部薬学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
薬学基礎教育科目	薬学人としての教養入門	1前	2			○			4		1			兼1	共同
	社会学	1前		2		○					1			兼1	
	心理学	1前		2		○					1			兼1	
	人間関係論(コミュニケーション論)	1後		2		○					1			兼1	兼1
	法と社会(日本国憲法)	1前		2		○								兼1	
	有用天然資源の歴史と応用	1後		2		○			1	1				兼1	兼1
	現代社会と経済	2前		2		○								兼1	
	臨床心理学	2前	2			○					1			兼1	兼1
	生命倫理	2後		1		○								兼1	
	社会保障社会福祉論	2後		2		○								兼1	兼1
	スポーツと心理	2後		2		○								兼1	
	ロジカルライティング	3前		1		○			1						オムニバス
	臨床生理学	3前		2		○			2	1					
	臨床研究(治験)総論	3後	2			○			1	1					
	統合医療	4前		2		○			1						
	リハビリテーション論	4前		2		○								兼1	
	薬学数学	1前	1				○							兼1	
	統計学	1後	2				○							兼1	
	データサイエンス基礎	2前	1				○							兼1	
	データサイエンス演習	2後	1					○						兼2	
	英語コミュニケーションⅠA	1前	1				○					1		兼2	兼2
	英語コミュニケーションⅠB	1前	1				○					1		兼2	
	英語コミュニケーションⅡA	1後	1				○					1		兼2	兼2
	英語コミュニケーションⅡB	1後	1				○					1		兼2	
	医療・薬学英語Ⅰ	2前		1			○							兼1	兼1
	医療・薬学英語Ⅱ	3前		1			○							兼1	
	ファーマシストのための実践英会話	4前		1			○					1		兼1	兼1
	中国語Ⅰ	2前		2			○							兼1	
	中国語Ⅱ	2後		2			○							兼1	兼1
	フランス語Ⅰ	2前		2			○							兼1	
	フランス語Ⅱ	2後		2			○							兼1	兼1
	スポーツ理論・実技	1前	1					○						兼1	
	スポーツ健康運動方法論	1後		1				○						兼1	
小計(33科目)		—	16	36				—	7	3	2		兼17		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手					
薬学専門教育科目	薬学と 社会	医療における薬学	1前	1			○			1	5	2	2		兼1 兼1 兼1	共同		
		医療ボランティア実践	1後	1			○			1	5	2	2			共同		
		医療コミュニケーション	3前	1			○			1	5	2	2			共同		
		レギュラトリーサイエンスに基づく医薬品開発	3前	1			○			2	2					共同		
		薬事関連法規	3後	2			○											
		医療倫理学	4前	2			○											
		医療関連制度	4前	1			○											
	物理系薬学	薬学物理学	1前	1			○			5						共同		
		薬品物理化学Ⅰ	1後	2			○			2						共同		
		薬品物理化学Ⅱ	2前	2			○			1								
		薬品分析化学Ⅰ	1後	2			○			1								
		薬品分析化学Ⅱ	2前	2			○			2		1				共同		
		生物物理学の基礎と応用	2後	1			○			3						オムニバス		
		薬剤学Ⅰ	3前	2			○			2						共同		
		薬剤学Ⅱ	3後	2			○			1	1					共同		
	臨床統計学	4前	1			○									兼1			
	化学系薬学	基礎化学	1前	1				○		1	1					共同		
		有機化学Ⅰ	1後	2			○			1	1					共同		
		有機化学Ⅱ	2前	2			○			1	1					共同		
		有機化学Ⅲ	2後	2			○			1	1					共同		
		天然資源学Ⅰ	2前	2			○			1								
		天然資源学Ⅱ	2後	2			○				1							
		生物有機化学Ⅰ	1前	1			○			2	2					共同		
		生物有機化学Ⅱ	3前	1			○			2	2					共同		
		医薬品化学	3後	2			○			1	2					共同		
	生物系薬学	薬学で学ぶ生物学	1前	2			○			7	1					オムニバス		
		生化学Ⅰ	1前	2			○			1								
		生化学Ⅱ	1後	2			○			1	1					オムニバス		
		生理解剖学Ⅰ	1前	2			○			1	2					共同		
		生理解剖学Ⅱ	1後	2			○			1	2					共同		
		細胞生物学	2前	2			○			2						共同		
		微生物学	2後	1			○			1	1					共同		
		分子生物学	2後	2			○			2						共同		
免疫学		3前	2			○			1	1					共同			
衛生化学Ⅰ		2後	2			○			1		1				共同			
衛生化学Ⅱ		3前	2			○			1		1				共同			
公衆衛生学		3後	2			○			1									

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手						
薬学専門教育科目	医療薬学	薬理学Ⅰ	1後	2			○			1	1					兼1	共同		
		薬理学Ⅱ	2前	2			○			1	1						共同		
		薬理学Ⅲ	2後	2			○			1	1						共同		
		病理学	2前	1			○												
		病態解析学	2前	2			○			2	1							オムニバス	
		臨床検査学	2後	2			○			1	1							共同	
		薬物治療学Ⅰ	2後	2			○			1	1							共同	
		薬物治療学Ⅱ	3前	2			○				1								
		薬物治療学Ⅲ	3前	2			○			1									
		薬物治療学Ⅳ	3後	2			○			1									
		薬物治療学Ⅴ	3前	2			○				2							共同	
		薬物治療学Ⅵ	4前	2			○					1							
		臨床薬物動態学	3前	2			○			1	1							共同	
		病態評価学	3後	2			○			1									
		セルフメディケーション実践	4前	1			○				2								
	医薬品情報学	4前	2			○			1	2								オムニバス	
	医薬品安全性学	4前	2			○				1	1	1					共同		
	地域医療薬学	4前	1			○				1	1						共同		
	臨床漢方治療学	4前	1			○											兼1		
	臨床栄養学	4前	1			○											兼1		
薬学演習	基幹薬学演習	1前		1			○		6								共同		
	総合薬学演習Ⅰ	4後	2				○		18	19	6	7					共同		
	総合薬学演習Ⅱ	6後	6				○		19	19	6	7					共同		
薬学実習	研究入門	1前	0.5				○		18	19	6						共同		
	薬学基礎実習	1後	1					○	18	14	4	5					共同		
	化学系実習Ⅰ	2前	1					○	1	2							共同		
	化学系実習Ⅱ	2前	0.5					○	1	1		1					共同		
	化学系実習Ⅲ	2後	0.5					○	1	1		1					共同		
	生物系実習Ⅰ	2前	0.5					○	1	2							兼1		
	生物系実習Ⅱ	2後	1					○	3	1	1	2					共同		
	生物系実習Ⅲ	3前	1					○	1	1		1					共同		
	生物系実習Ⅳ	3前	2					○	3	4							共同		
	生物系実習Ⅴ	3後	1					○	1		1						共同		
	生物系実習Ⅵ	3後	1					○	1	1							共同		
	物理系実習Ⅰ	2前	0.5					○	1		1						共同		
物理系実習Ⅱ	3前	1					○	3	1							共同			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
薬学専門教育科目	高齢者薬物治療学（老年医学）	5・6通	1				○			1					兼1 共同・集中 共同・集中 共同・集中 集中 集中 集中 共同・集中 共同・集中 共同・集中 集中 共同・集中 共同・集中 集中 集中 集中 集中 兼1 兼1 兼1	
	救急・集中治療・周術期薬物治療	5・6通	1				○			1						
	周産期・小児薬物治療	5・6通	1				○			1	1					
	精神神経系薬物治療	5・6通	1				○			1						
	アドバンスト実務実習(病院)	5・6通		3~6				○		1	5	2	2			
	アドバンスト実務実習(薬局)	5・6通		3				○		1	5	2	2			
	海外実務研修	5・6通		3				○		2	1					
	海外応用研修	5・6通		3				○		1	1					
	専門薬剤師特論Ⅰ	5・6通		0.5		○				2						
	専門薬剤師特論Ⅱ	5・6通		0.5		○					1					
	専門薬剤師特論Ⅲ	5・6通		0.5		○			1			1				
	専門薬剤師特論Ⅳ	5・6通		0.5		○				2						
	救命救急・災害医療	5・6通		0.5		○								兼1		
	医療現場におけるヒューマニズム	5・6通		0.5		○					1			兼1		
	健康食品学概論	5・6通		0.5		○			1	1						
	医療通訳英会話	5・6通		0.5		○					1					
	医薬品等に関わる規制調和と国際標準	5・6通		0.5		○				1						
	食品栄養学	5・6通		0.5		○								兼1		
	実務実習	医療プロフェッショナルリズム入門Ⅰ	1通	1				○		19	19	6	7			
		医療プロフェッショナルリズム入門Ⅱ	2通	1				○		19	19	6	7			
		病院・薬局実習事前学習	4後	8					○	1	6	2	2			兼1
チーム医療Ⅰ		3通	1				○		19	19	6	7				
チーム医療Ⅱ		4通	1				○		19	19	6	7				
病院・薬局実務実習		5通	20					○	14	17	6	4		兼1		
特別実習	医療薬学基礎研究	3後・4通	4					○	18	18	6					
	医療薬学実践研究	5・6通	4					○	19	18	6					
小計（99科目）		—	160.5	18~21			—		19	19	7	7		兼10		
合計（132科目）		—	176.5	54~57			—		19	19	7	7		兼25		
学位又は称号		学士（薬学）		学位又は学科の分野				薬学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
薬学基礎教育科目のうち、「薬事教養系」は、必修6単位に加え、選択科目から6単位以上を修得する。「データサイエンス系」は必修5単位修得する。「言語とスポーツ系」は必修5単位に加え、選択科目から4単位以上を修得する。薬学専門教育科目のうち、必修科目160.5単位、選択科目から6.5単位を修得する。合計193単位を修得する。（履修科目の上限：46単位／年間）								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部薬学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学基礎教育科目	薬事教養系	薬学を学ぶ上で必要となる教養として、医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における薬剤師の役割を理解し、使命感を修得する。そして現代社会において、薬や健康機能性素材をどのように管理・利用しているかを学修する。さらに薬学で学ぶ学問領域、薬学が活躍できる職業、薬学の知識・技能をもつ研究者・技術者が社会から期待される役割など、薬学全般について学修する。それらを通して自身が将来どのような薬の専門家として社会に貢献したいか、いわゆるキャリアパスをイメージできる最初の機会を提供する。	共同	
		社会学	現代社会を取り巻く課題は数多く存在し、それらは私たちの身近なことから、国家規模の問題、世界全体の問題にまで広がっている。本講義では、現代社会における様々な出来事を取り上げ、それらがどのような歴史や特徴を持ち、どのような課題があるのかを検討する。これらの諸課題とその背景について学び、様々な社会的課題を考察できるようになるための社会学的知識を学修する。社会学的な理論や知識の観点から再度、社会的諸課題を見直すことによって、今後の社会について自らの視点を持って考え、物事に当たることができるようになることを目指す。また本講義では、講義とワークによって社会学の基礎を学び、グループディスカッションやプレゼンテーションによって、理解を深めていく。	
		心理学	心理学は、19世紀にはじまる比較的新しい学問であり、その歴史は人の心をいかに客観的に把握していくか、心とは何かという問いへの先人たちの格闘の積み重ねである。本講義では、心理学の基礎的な概念と、どのような研究からそれが導き出されてきたのかについて学ぶ。心理学は文学や思想を学ぶうえでの基礎的な教養であり、人間理解のための基礎的な知識である。本講義では、学問としての心理学の見解と概念を理解するとともに、人間の知覚や認知の特性、記憶の種類や特徴、パーソナリティの類型や特徴や社会心理学の諸理論などを学修する。	
		人間関係論（コミュニケーション論）	医療従事者として、医学的・社会的問題を抱える対象者に対して関わる際や円滑な医療サービスの提供のためには、多職種連携をスムーズに行うために、専門家としてのコミュニケーション力を涵養することが必要である。本講義では、コミュニケーションの医療現場、特に多職種連携における必要性及び重要性について学修し、医療人（薬剤師、医療実習生）として求められるコミュニケーションスキルに関する知識、技法について学び、実際の臨床現場や実習場面などで活かせるスキルについてアクティブラーニングを通じて理解を深める。	
		法と社会（日本国憲法）	本講義の目的は、私たちの社会において法とは何か理解することである。私たちの社会は、いろいろな人たちの集合でできている。一人ひとりが異なる価値観を持つため、もし誰もが好き勝手に行動をしてしまったら、様々な場面で衝突が起き、大混乱を起こすだろう。従って私たちの社会は、秩序を保つため、皆が共有するルールを必要としている。即ち、法である。日常生活においてどれほど意識しているかはさておき、法は、私たちの生活の様々な場面で私たちの行動を規制し、また私たちのことを支えてくれている。本講義では、社会規範のひとつである法とは何かについて学ぶ。特に法について基礎的な事柄を学んだ後、明治以降の日本の歴史に則し、法制度の近代化についても学修する。現在の私たちの社会における法の意味と意義、問題点について自分ごととして考えることにより理解を深める。	
		有用天然資源の歴史と応用	生物全体の生活を支えてきたのは植物である。人の歴史は決して人だけが単独で作上げたものではなく、歴史の重要なポイントで植物が重要な役割を果たしている。植物の歴史を知ることが、人だけでなく生物の歴史を知ることにも繋がるのである。本講義では、過去から伝承されてきた植物の有用性やその利用方法を学び、食同源といわれるように“食べることで治療に繋がる”ものや“生活様式に彩りを添える草木染め”、“食欲を増進させる香辛料やフレーバー”など、我々の暮らしの中に広まった植物の活用を再認識することで、衣食住を豊かにする知識の修得を目指す。また身近な薬用植物や染料・香辛料となる植物を取り上げる。	
		現代社会と経済	現在の我が国は、かつて経験したことのない人口構造の変化や長引く経済の低迷、格差の拡大等、様々な構造的課題に直面している。このような日本社会において、経済の現状と課題を認識するには、広い視野に立つて主体的及び論理的に考察する必要がある。本講義では、「社会政策」「公共政策」「社会福祉」の3分野にわたる複眼的視点から、現代社会と資本主義経済の基本的な仕組みと課題を考察する。またこれらの実例等を理解することが、本講義の学修テーマ及び到達目標である。本講義を通して、経済学及び社会学の基礎的な知識を修得することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学基礎教育科目	薬事教養系	臨床心理学	臨床心理学は、ひろく心理学の中の一つの分野であり、実際の臨床現場に即した学問である。臨床心理学の歴史は、人が人間の心をいかに理解し、援助しようとしてきたかを表しており、時代毎の精神がその内に顕現している。臨床心理学は、苦しむ人の傍らにいて、その人が自分なりの答えを自分の内側に見出し、自分の足で歩いていかれるようになる一連のプロセスを見守り、心の成熟に資することに役立つとする実践的学問である。本講義では、臨床心理学の成り立ちを辿りながら、代表的な理論について学び、基本姿勢や心理アセスメントに関する概要を学ぶことにより、臨床現場で他者の心理を理解し接するための基礎的な教養を身に付ける。	
		生命倫理	医療にかかわる薬剤師には薬の知識のみならず、医療という広い観点から患者の置かれている環境・思想・価値観などを俯瞰的に観て考える姿勢が求められる。生命倫理が包含する内容は極めて多く、臨床研究の倫理をはじめとした医の倫理、薬の倫理、動物実験の倫理や、基礎及び臨床での研究不正の問題など、必要とされる内容を広い視野を持って考えることが重要となる。本講義では、薬剤師に必要な不可欠な資質である倫理観を養うことを目標とし、実際に臨床現場で起きているテーマを通して人々の多様な生き方や価値観を理解し、自分の考えを述べるができるようになる。また動物の生命についても取り上げ、生命を尊重する態度を身に付ける。	
		社会保障社会福祉論	社会保障は、国民が生涯にわたって健康で文化的な生活を送ることができるようにすることを目的とし、その重要な柱が保健・医療・福祉制度である。我が国は今日、少子化・長寿化など人口構成の高齢化、疾病構造の変化と医療の高額化、世帯と地域社会や働き方の変化が進み、保健医療福祉に関する社会的なニーズは増大し多様化してきている。他方、経済の低成長が長期化するなか、社会保障・社会福祉行政に対する財政面などからの制約も強まってきている。社会経済の変容や一人ひとりのニーズに的確かつ効率的に対応するためには、医療機能の分担と連携、医療と介護の連携、地域包括ケア、生涯を通じた「データヘルス」、医療費・介護サービス費等の審査支払改革等、社会保障・社会福祉分野における情報化は最も重要な課題となっている。本講義では、こうした政策課題に的確に取り組む医学・医療・健康分野に係わる者に必要な社会経済の変化の動向、関連行政・制度の仕組みと改革課題について学修する。	
		スポーツと心理	本講義では、スポーツ場面で生じる心理的な問題について科学的なデータに基づいて理解することを目指す。具体的には、最高のパフォーマンスを発揮するための心理状態、スポーツ経験が心にどのような影響を与えるか等のスポーツと心理に関わる幅広い内容を扱う。基礎的な心理学の理論や考え方を理解することに加えて、心理状態を測定できる多様な生体データを理解し、実際の測定等を通して心理データの扱い方や読み取り方を理解していく。またグループディスカッション等も取り入れアスリート、子どもから高齢者における心理的な問題を解決するための方法を理解する。	
		ロジカルライティング	文章を書くことは、自分の考えを相手に伝えるためのコミュニケーションのひとつである。本講義では、受講生が社会生活において必要な文章を書くことができるよう、「主張を的確に伝える文章のポイント」について基礎から解説する。レポート・論文の書き方について、例を示しながら説明し、医療及びその関連の場におけるビジネス文書の特徴とルールを紹介する。授業全体を通して、生涯にわたって活用できる、実践的な文章力の修得を目指す。	
		臨床生理学	(概要)臨床実務を志す学生が、検査と薬物治療の適正性の評価の視点を持つようになるために、生理学的検査による身体の生理的機能の評価を通して生体の機能変化と病態の関係を理解する。本講義では、臓器組織の機能と形態を把握し、病態を適正に評価する手段として日常的に行われる生理学的機能検査の結果に基づいて疾患における病像・病態を考察、説明するために必要な基礎的知識を修得する。 (オムニバス方式／全15回) (12 宮崎 哲朗／9回) 呼吸機能検査、心電図検査、心音・脈波検査について学修する。 (6 田部 陽子／4回) 超音波検査について学修する。 (27 里 史明／2回) 脳波検査、筋電図検査、熱画像検査について学修する。	オムニバス方式
		臨床研究（治験）総論	薬剤師は、医療・公衆衛生等を担うPharmacist-Scientistとして、薬学における基礎的及び専門的な知識・技能をもとに、医療・公衆衛生等の人の健康に係わる薬学研究的学術的重要性と社会的意義を理解しなければならない。こういった視点からこれまでの研究の成果を批判的思考によって評価し、薬学の学術的発展や社会に貢献する姿勢を涵養する。また薬学的課題を発見し、研究に向けて当該課題に係わる主体的な調査、解析、評価を行うことにより、自らの研究テーマを設定し、課題の解決に向けた確かな研究計画を立案する能力を身に付ける。創造的思考に基づいて、研究を実践して成果を得ること、成果に対する学術的考察を行うこと、さらに研究プロセスと成果に基づいて論文等を作成することを通して、Pharmacist-Scientistとして必要な問題解決能力を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学基礎教育科目	薬事教養系	統合医療	現代医療は西洋医学を中心に発展してきたが、それのみでは対応できない疾患、症候の存在が知られている。漢方を含む統合医療は西洋医学を補充・代替する治療として重要な手段と位置付けられているが、その概念はいまだに確立されいない。そのため、患者の不十分な知識や理解から、十分なエビデンスのないまま使用される薬剤やサプリメント、治療方法が広まり、患者の治療に弊害を来す症例も散見される。本講義では、統合医療の概念と実際を学ぶとともに、その中でエビデンスに基づく医療を見極める知識と能力を修得する。	
		リハビリテーション論	本講義では、リハビリテーションの理念を学修し、リハビリテーション医学、社会的リハビリテーション、地域リハビリテーションについても広く学修する。リハビリテーション医学においては、疾病からもたらされる障害に関して診断・評価を行うことが重要となる。その上で各患者（児）が有する問題点を障害のレベル別に整理し、治療の方針と内容・期間を決定し、機能予後の予測を行うことが必要である。ICF及びICIDHの概念を理解することにより、全人的医療であるリハビリテーション医学を学ぶとともに、脳血管障害、運動器、内部障害、がんなどの疾病特性に合わせたリハビリテーション治療について学修し、各障害の捉え方、各疾患、障害に対するリハビリテーション治療の方法も学修する。リハビリテーション治療の実際を学修することで地域医療における介護・福祉の分野の他職種と連携して、患者が服用中の医薬品との相互作用に考慮した健康食品やサプリメント等の提案によりリハビリテーションを支援できる基礎的能力を修得する。	
	データサイエンス系	薬学数学	本講義では、薬学に必要な微積分学や線形代数学の基礎について学ぶ。微積分学については、簡単な微分方程式、多変数関数における偏微分、全微分、重積分、ラグランジュの未定乗数法などの極値条件などについて扱う。線形代数学については、基本変形を用いた逆行列の求め方や連立方程式の解法、行列式の計算、固有値及び固有ベクトルを用いた行列の対角化、分解について扱う。これらの内容については、薬学分野だけではなく、データサイエンスの基礎となる数学でもある。	
		統計学	統計学は、医学・薬学研究から得られるデータのように共通する特徴はあるものの、個別には変動（バラつきやゆらぎ）があるようなデータを扱うときに非常に有用である。またビッグデータやデータサイエンスと呼ばれるような、膨大なデータを処理し活用するときにも不可欠な技術である。こうした統計学の基礎を実験精度と誤差の観点から講義していく。また数値データを用いて定量的に現象を把握するだけでなく、相手を説得する際に必要となる学問である。本講義では、統計学の基礎的な概念を理解するとともに、実データを基に統計計算することにより、研究などで必要となる統計理論に関する理解を深める。	
		データサイエンス基礎	データサイエンスやAI（人工知能）の基本について、現実の社会での利活用の状況について理解するとともに、これからの社会において新たな価値を生み出すために必要な知識や技術であることを理解する。またそれらを利活用するだけでなく、技術的なことについても学修する。またデータやAIを扱う上で重要な留意事項として、個人情報保護、研究倫理、データに関するインシデントについての対策やセキュリティの基本についての技術や倫理観・社会感を修得する。	
		データサイエンス演習	近年「データサイエンス」が注目され、様々な分野で活用されている。医学や薬学分野においては、大規模なデータを用いた「AI創薬」や治療予後予測ができる人材を養成する・活用するということが叫ばれている。本講義では、実際のデータサイエンスの課題に取り組むことによって、基本的なデータ分析スキルを向上させ、データサイエンスが社会でどのように活用されているのかを知ることを第一の目的とする。さらに体系的な演習を通して、データサイエンスの方法論を修得することを目指す。	
	言語とスポーツ系	英語コミュニケーションⅠA	本講義は、薬剤師として社会で活躍するための総合的な英語力を養成することを目標とする。具体的には、学内で実施されるTOEFL試験に対応できるような英語の基礎的能力を養成する入門クラスである。TOEFLの問題は、国内の普通高校で教育を受けた日本人学生にとって極めて高度なレベルにある。英語で講義を聞く、文献を読む、英語で答えるなど、アメリカの大学で学ぶための英語力が測定される試験である。そのような学力を視野に入れて、本講義では、Readingを中心として、読解に不可欠な文法の基礎と語彙力の強化を目標とする。高等学校での学習との接続という観点から、英米で出版された比較的易しいReading教科書を中心にしながら付随するListening教材をも活用し、読解と聴解を組み合わせることにより自然で無理のない形の英語力の向上を目指す。	
		英語コミュニケーションⅠB	英語コミュニケーションⅠAと同じく、薬剤師として社会で活躍するための総合的な英語力を養成することを目標とする。英語コミュニケーションⅠAではReadingに重点が置かれるが、本講義では、Listeningに重点を置き聴解力をより伸ばすことを目標とする。TOEFLをはじめとする各種資格試験で高得点を上げるには、実用語彙の増強が不可欠である。実用語彙とは、単語を文字としてだけでなく、音として理解し、自ら発音できる単語の知識である。また連語を聴いて理解する能力も不可欠である。このような意味での実用語彙の増強を図りつつ、Listening教材については易しいものから次第に難易度をあげて聴解力の向上を進める。授業の中で語彙テストを実施し、英語で書く簡単なWritingの課題も含め、コミュニケーション力の向上を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学基礎教育科目	言語とスポーツ系	英語コミュニケーションⅡA	前期の英語コミュニケーションⅠAと英語コミュニケーションⅠBで設定された学修目標を引き継ぎながら、グローバル化する環境に対応し得る薬剤師となるため、さらなる学力の向上を目指す。TOEFL等の資格試験には、単なる英語力だけでは対処できない。英米の文化、世界各国の社会、科学知識など、高度な常識と教養が不可欠である。そのような観点から、英米で出版されている教科書を用いて、英語力だけでなく常識力を養成することを目標とする。より高度なReading素材とListening教材を用いて、練習を重ねることによって読解力と聴解力の伸展を図る。また文化・社会にかかわるより高度な語を含めた語彙テストのほかに、英語Writingの課題を課すことによって、実践的なコミュニケーション能力の向上にも努める。	
		英語コミュニケーションⅡB	本講義は、英語コミュニケーションⅡAと相補的な関係にあり、世界の文化と常識、科学的常識を獲得しながら、グローバル化する環境に対応し得る薬剤師になるための総合的な英語力を向上させ、学内のTOEFL試験に備えることを目標とする。これまでの学修の中で修得が不十分である領域を認識し、それを重点的に学修させる。より高度な語彙力の養成、難易度の高いListening素材の活用、教養的な内容の素材による読解の練習をさらに重ねる。また読解については日本語や英語で要約を書いたり口頭で発表したりする練習を行い、Reading、Listeningに加えて、WritingとSpeakingにも配慮した英語力の向上を図り、TOEFL試験での高得点の獲得とともに、社会人として十分に用いることが出来る、実用的な英語力の完成を目指す。	
		医療・薬学英語Ⅰ	基礎薬学及び基礎医学系に関する英語論文や英文専門書の読解力を養い、その中で論文の構成やwriting、会話についても学び、基礎系薬学英語に精通することを目指す。本講義では、基礎系薬学の各分野（有機化学、物理化学、薬剤学、生物学、薬理学、医療薬学等）に関する学術的・一般的記事や会話を読んだり聞いたりすることを通して、専門分野で使える語彙・フレーズを学び、シンプルな英語で実際に説明する知識と語学能力を修得する。	
		医療・薬学英語Ⅱ	医療系薬学及び臨床医学系に関する英語論文や英文専門書の読解力を養い、その中で論文の構成やwriting、会話についても学び、それらに精通することを目指す。本講義では、医療系薬学の各分野（薬理学、医療薬学等）及び医療の各分野（基礎医学・臨床医学等）に関する学術的・一般的記事や会話を読んだり聞いたりすることを通して、専門分野で使える語彙・フレーズを学び、シンプルな英語で実際に説明する知識と語学能力を修得する。	
		ファーマシストのための実践英会話	現在、医療現場は日々進歩し、グローバル化している。英語を駆使し、世界の動向に正確に対応する力、世界を舞台に専門性を発揮する力を培うことが、今日の薬剤師には求められている。また近年のインバウンド増加により医療機関を訪れる外国旅行者が増加し、さらにドラッグストアにおいても一般医薬品を購入する旅行者も増加し、それらの場面において英語での医療コミュニケーションが当たり前になりつつある。本講義では、現場に対応できるように、実用的な医療英語の知識と技能を、会話に焦点を当てて修得する。	
		中国語Ⅰ	現在中国語を母語とする人は約13億人以上、第二言語としても約2億人が使用しているといわれ、世界最大の話者人口を有する言語である。本講義は、中国語の発音と文法を基礎から学修し、初歩的なコミュニケーション力を身に付けることを目的し、中国語勉強の土台をつくるプログラムである。授業の前半は発音をマスターし、後半から文法、会話に挑み、読み、聞き、書きをバランスよく学修することを目指す。基礎単語約300～400語、簡単な日常挨拶語を学修することを目指す。	
		中国語Ⅱ	中国語Ⅰの文法をまんべんなくマスターするためのプログラムである。学生は前期で学修した中国語Ⅰをしっかりと理解した上で、一層複雑な文法、会話の勉強に挑む。予習と復習を行い、文法をマスターし、授業中の会話にも積極的に参加することにより、日常生活に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。常用語400～500語による中国語単文の日本語訳と日本語の中国語訳ができ、中国語検定準4級に合格することを目指す。	
		フランス語Ⅰ	本講義では、フランス語の文法を入門レベルから学修し、読み書きや会話を含む基本的なフランス語能力を身に付けることを目指す。学生と教員の双方のやりとりや学生同士の会話練習も取り入れることにより、言語を実践的なコミュニケーション手段として修得することを目指す。文法事項については、ドリルの反復により基礎力を固めるとともに、定期的な小テストを実施することにより修得度を測る。さらにフランス語圏の文化や時事に関する事柄も随時取り上げることによって、文化的差異や多様性に意識を向けながら言語を学び、異文化理解を深める。	
		フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰに続き、本講義では、フランス語の初級文法を学修し、読み書きや会話を含む基本的なフランス語能力を身に付けることを目指す。学生と教員の双方のやりとりや学生同士の会話練習も取り入れることにより、言語を実践的なコミュニケーション手段として修得することを目指す。文法事項については、ドリルの反復により基礎力を固めるとともに、定期的な小テストを実施することで修得度を測る。また単語を含む英仏の例文等の比較学修法を取り入れ、語彙力強化を図るとともに、英語や日本語との言語の仕組みの違いや共通点を発見し、より実践的なコミュニケーションを図れるように新たな学修方法を確立する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学基礎教育科目	言語とスポーツ系	スポーツ理論・実技	本講義では、コンディショニングの基礎理論とその具体的方法について、健康やスポーツ科学への学問的な理解を深め、各自の健康づくりや体力向上を目的として展開する。健康や体力向上のための安全かつ効果的なコンディショニングの基礎理論及び実践方法について理解を深め、個々の体力に応じた効果的なトレーニングの実践及び対象者の目的に応じた安全なスポーツの実践方法について学修する。実技内容は、体力測定、ストレッチング、有酸素トレーニング、無酸素トレーニング、筋力トレーニング、レクリエーションスポーツ、ネット型ゲーム、ゴール型ゲーム等を実施する。また実技を通して対人コミュニケーション能力の養成も目標とする。	
	スポーツ健康運動方法論	本演習では、スポーツや健康に係わる様々な運動処方の方法論について理解を深める。健康の維持増進や体力の向上を目指した運動方法やアスリートの競技力向上を目指した運動方法の理論と実践方法及びスポーツ現場の安全管理について展開する。具体的な項目として、子ども・中年・高齢者・障害者・アスリートや性差に応じた運動プログラムの基本的指導法、対象者を理解した運動指導時の留意点、スポーツ現場の安全管理体制、健康づくり運動の実践例の紹介等、スポーツや健康に関する運動プログラムの実践方法を学修する。さらに応用として年齢に応じた体力・運動能力の測定、健康関連体力テストの提案やその評価方法に関する理解等も目標とする。		
薬学専門教育科目	薬学と社会	医療における薬学	薬剤師として生涯にわたって研鑽し、豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師の任務、関連する他の専門職の任務について理解し、医療において薬剤師が果たすべき使命と責任を学ぶ。また患者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンに代表される医薬品等による健康被害（薬害、医療事故、重篤な副作用等）を発生させることがないよう最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現することの大切さを学修する。	共同
		医療ボランティア実践	豊かな人間性と倫理観を持った医療人となるために、医療人として求められる態度を身に付けるとともに、医療におけるボランティアの役割と意義、さらにボランティアをする側、される側に必要な教育や組織運営のあり方、さらには社会整備がどうされるべきかなどボランティア活動のあり方を学修する。本講義では、医療におけるボランティア活動の目的・意義及びボランティアにおける薬剤師の役割を理解するとともに、医療におけるボランティア・介護支援における見守りなどの「生活援助」や排泄や歩行などの介助をする「身体介護」について学修する。	共同
		医療コミュニケーション	薬学生として将来人の命に携わる医療人となる自覚を持ち、信頼される態度や行動を身につけていくことは、知識や技術の研鑽とともに重要である。本講義では、医療者と患者・家族間、及び医療者間のより良いコミュニケーション関係の構築のために、自分を知り、相手を理解するための臨床心理学やコミュニケーション、行動科学の知識、技能、態度の基礎を修得することを目的とする。またチーム医療の中での薬剤師としての役割を理解し、多職種との協力関係から問題点を構造化し、プロブレムリストの作成及び問題志向型システム（Problem Oriented System）の実践を行う。	共同
		レギュラトリーサイエンスに基づく医薬品開発	医薬品の開発は、人類の保健衛生の維持・向上に欠かせないものであり、その品質、有効性、安全性を確保するため、様々な法律や法令等が設定されている。医薬品の開発から患者に適正使用されるまでの各段階で、レギュラトリーサイエンスの概念に基づく客観的かつ科学的根拠による適切な予測、評価・調整が必須となる。本講義では、医薬品開発と適正使用に係わるレギュラトリーサイエンスについて、医薬品を安全かつ適正に患者に提供できる薬剤師となるために必要な知識を修得する。	共同
		薬事関連法規	人々の生命や健康な生活を守ることを使命とする薬剤師として、責任をもって医療や社会に参画するために、薬剤師の一生涯の行動規範となる薬事関係法規の基本的事項を理解するとともに、薬事分野における法的、制度的、倫理的問題解決に必要な知識、技能、態度を修得する。本講義では、調剤、医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規とその意義を理解するとともに、保健・医療・福祉に係わる法規・制度・経済及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身に付ける。	
		医療倫理学	医療にかかわる薬剤師には薬の知識のみならず、医療という広い観点から患者の置かれている環境・思想・価値観などを俯瞰的に観て考える姿勢が求められる。本講義では、終末期医療、生殖医療、脳死と臓器移植などの臨床現場で起きているテーマを通して人々の多様な生き方や価値観を理解し、薬剤師に必要な不可欠な資質である倫理観を涵養する。さらに薬学・医学領域において研究者が研究活動を行うにあたって持つておかなければならない倫理観についても学修する。	
		医療関連制度	少子高齢化、医療技術の進歩等は医療費高騰の要因であり、医療保険制度を持続させるためには限られた医療資源を有効活用する必要がある。医療保険財政の現状、薬価の仕組み、薬物療法の経済性評価について学修し、医療の質を下げることなく効率的に医療を提供する方策を学ぶ。本講義では医療法、社会保障制度、医療保険制度、高齢者医療制度、公費負担医療制度、介護保険制度、健康保険法と療養担当規則、薬価基準、診療報酬・調剤報酬・介護報酬、医薬品と医療の経済について学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学専門教育科目	物理系薬学	薬学物理学	一般に薬物及び生体高分子、医薬品添加物などの物質は、物理法則に従った挙動をとる。物理学は、薬物の状態変化、薬が作用する仕組み、医薬品の製造やその取り扱い方法、NMR、MRI、X線回折などの医療機器や分析機器の原理、身体の機能等を理解する上で重要である。本講義では、薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎学力を身に付けるため、基本となる各種法則を理解し、物質及び物体間の相互作用などに関する基礎知識を修得する。	共同
		薬品物理化学 I	生命現象を理解する上での基礎となる物質の状態及び相互変換過程を解析できるようになるために、熱力学の基本的知識と技能を修得する。また物質の溶液の状態、相の状態（気相、液相、固相）と相変化などに関する基礎的知識をエネルギーと化学ポテンシャルの概念を用いて修得する。本講義では、エンタルピー、エントロピー、ギブスエネルギー、化学平衡、相平衡等をキーワードとした学修を行うとともに、放射性核種と放射崩壊についても学修する。	共同
		薬品物理化学 II	医薬品を製剤化するためには、製剤中あるいは体内における薬物などの物質の挙動や現象を科学的に理解するための基礎的知識を修得する必要がある。本講義では、複雑な系における物質の状態及び相互変換過程を熱力学に基づき解析できるようになるために、溶液及び電気化学に関する基本的知識と技能を修得する。また物質の変換過程を理解するために、化学反応速度論及び反応速度に影響を与える諸因子に関する基本的知識と技能を修得する。	
		薬品分析化学 I	分析化学とは、自然界に存在するあらゆる物質の組成や構造及びその量を明らかにする学問である。化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する必要がある。本講義では、まず単位や濃度など数値の取り扱いの基本的知識を修得する。加えて「物質の組成や状態」を明らかにする定性分析、「物質の量」を明らかにする定量分析の原理と応用例について学修する。さらに日本薬局方収載医薬品をはじめとする各種化学物質の確認試験、純度試験及び定量法についての基礎知識を学修する。	
		薬品分析化学 II	薬学の基礎研究や臨床研究で、試料中の物質の量や構造を可視化するための代表的な機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。分離分析法に関する基本的事項を修得するために、光を用いた機器分析法、クロマトグラフィーや電気泳動法による分離分析法、生体試料の取り扱いと前処理法、免疫学的測定法などを学ぶ。加えて最新の生命科学の実験技術の概略と代表的な画像診断技術の基礎を学修する。	共同
		生物物理学の基礎と応用	<p>(概要) 生物物理学とは、物理学的手法（実験方法、思考方法）を用いて生物を理解する学問領域である。その対象は、生物の多様性と階層性を反映して多岐にわたっている。すなわち、生体分子の個々の構造から、生体膜、分子集合体、生体小器官や細胞、生体組織、個体、生物集合体に到るそれぞれのレベルでの構造と物性・機能、それぞれの階層間の相互関連や進化等である。薬学においても、薬物と受容体の結合様式や作用発現の機構の理解、生体膜の基本構造と類似したリン脂質の二分子膜からなる小胞（リボソーム）がDDSキャリアとして用いられているなど生物物理学的手法は不可欠である。本講義では、生物物理学研究で用いられる物理学的手法（技術）とその原理を紹介するとともに、それらの手法を使ってどのような生命現象が解き明かされ、創薬へと応用されたかを例を挙げながら講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(11 青山 浩／5回) 生物物理学の概要、生体高分子の構造解析について学修する。</p> <p>(1 岩渕 和久／2回) 生体分子の膜上での局在や動態解析について学修する。</p> <p>(18 名黒 功／1回) 細胞内で起こる相分離現象の役割と解析法について学修する。</p>	オムニバス方式
		薬剤学 I	薬物は、錠剤、注射剤などのように患者に投与できる形態（剤形）に製剤化されて、はじめて医薬品として医療現場に提供される。薬物の有効性や安全性を高めた製剤とするには、生体内において適切な作用時間及び臓器・組織での作用発現を考慮した剤形の工夫が必要である。本講義では、それらの医薬品製剤開発に必要な薬物と製剤材料の物理学的な性質を理解するために、粉体科学、結晶学、界溶液論、高分子化学、界面化学、分散系、レオロジー、医薬品の安定性・安定化など、薬剤学の基礎知識を修得する。	共同
		薬剤学 II	医薬品は、有効成分（原薬）の特性と適応を考慮した適切な添加剤と製造法によって、適切な経路で生体に投与できる「製剤」に設計される。品質を適正に確保するため、錠剤や注射剤など様々な製剤の特徴、製法、製剤の質を保証するための試験法や保存法等が日本薬局方製剤総則に定義されている。医薬品の有効性及び機能性や安全性等を高めるため、薬物送達システム（DDS）の概念と技術が製剤設計に取り入れられている。本講義では、医薬品の創製に必要な製剤設計学及びDDSに関する基礎と理論及びその技術を修得する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
薬学専門教育科目	物理系薬学 臨床統計学	医薬品開発においては、臨床統計学の方法を用いてデータの評価が行われている。本講義の目的は、臨床試験で得られるデータ解析を行う上で必要な統計学的知識と統計学的手法を修得することである。医学・薬学研究から得られるデータを適切に解析するため、具体的な問題を通して推測統計学的な考え方とデータの特徴に応じた解析方法を修得する。あわせて臨床試験の方法論も学修し、治験・臨床試験がどのように実施されているかを理解する。	
	基礎化学	医薬品の大半は、有機化合物で構成されている。医薬品の性質や生物機能を理解するためには、有機化学の知識が必要不可欠である。本講義では、その有機化学を今後深く理解できるようになるために、必要な基礎知識を身に付けることを目的として、原子及び化学結合の成り立ちについて学修する。続いて、化学物質間における相互作用について学ぶことにより、薬物と生体分子との相互作用の基礎を理解する。さらに分子の立体化学に関する知識を修得する。	共同
	有機化学Ⅰ	基礎化学で修得した化学の基礎知識を基に、本講義では、薬学を学ぶ上で必要となる有機化学の基礎的な知識及び概念を身に付けることを目的として、有機反応の反応機構について概観し、ハロゲン化アルキルについて、求核置換反応及び脱離反応について学ぶ。生体分子中に多く含まれる酸素官能基であるアルコールとエーテルの化学について学修し、官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。	共同
	有機化学Ⅱ	薬学を学ぶ上で必要となる有機化学の基礎力を身に付けることを目的として、有機化学Ⅰで学修した求核置換反応、脱離反応塔の知識を基に、アルキンの化学について学修する。官能基変換の基本となる酸化と還元についても学修し、ラジカル反応、共役と共鳴について学び、共役ジエンに特徴的な反応及びペリ環状反応について学修する。医薬品によく見られる芳香族化合物の性質と反応性について学修するとともに、生体機能性分子によく見られるカルボン酸について理解する。	共同
	有機化学Ⅲ	本講義では、カルボニル基を中心とした有機化学を学修する。特にカルボン酸、エステル、アミドは生体分子中にしばしば見られる化合物であり、生化学などの生物系の授業との関連も深い。生体内における相互作用と化学反応の中心となるカルボニルの化学を理解するために、主にカルボニル基の反応性、カルボニル基への求核付加反応及びカルボン酸とその誘導体の性質と反応に関して学修する。最後に無機化合物及び錯体について学び、医薬品中に見られる主要な基礎化学を理解する。	共同
	天然資源学Ⅰ	薬学の重要な役割の中に、病気の治療、予防を目的とする医薬品の創製がある。従って、その一環をなす天然物化学の使命は「重要な薬理活性を有する天然有機化合物を医薬品素材として探索する役割」である。天然物化学を支える知識や技術には天然有機化合物の「抽出・分離」、「物理・化学的性質の解明」、「構造決定」、「生合成」、「化学変換や全合成」、「化学分類学」、「化学生態学」などが含まれるが、その目的は優れた創造性豊かな医薬品の創製にある。本講義において、総論では、天然物から生まれた医薬品の化学構造と薬理作用から分類し、学修する。また代表的な天然有機化合物の取り扱い（抽出・分離・精製法、化学構造の決定法）を概説する。各論では、有用天然有機化合物を化学構造に基づいて分類し、これらの生合成経路、生物活性及び用途を関連付けて学修する。	
	天然資源学Ⅱ	生薬・漢方製剤は医療現場のみならず、薬局・薬店などでもセルフメディケーションに応用できる医薬品として重要な位置を占めていることから、それらについて体系的に理解し、説明できることは重要である。本講義の総論では、生薬、生薬学の歴史、漢方医学について学ぶ。各論では、代表的な動植物由来の生薬について、基原、成分、薬効、用途、確認試験、定量法などを学修するとともに、漢方医学と漢方の基本的な考え方、日本薬局方収載の漢方処方についても学修する。	
	生物有機化学Ⅰ	有機化合物で構成される薬と生体との相互作用を理解することは、薬の作用を本質的に理解する基盤となる。本講義では、生物を構成する様々な分子をその化学構造と性質に重点を置いて学修することで、その性質を化学的に理解し、生体と薬との相互作用を本質的に理解するための素地を作ることを目指す。具体的にはアミノ酸、タンパク質、糖、脂質、核酸など、生命活動に必要な不可欠な分子について、その性質・構造・生理活性を有機化学の立場から理解する。	共同
	生物有機化学Ⅱ	本講義では、薬の作用を本質的に理解するための基盤となる、薬としての有機化合物と生体との相互作用を理解することを目的として、生体内で起こる有機反応に重点を置いて学修し、生体と薬との相互作用を化学的に理解し説明できる知識の修得を目指す。具体的には糖質、脂質、核酸、タンパク質及びアミノ酸などを基質とする生体反応及び代謝と、活性酸素やリン化合物などが関わる生体反応について有機化学的視点から理解する。	共同
	医薬品化学	医薬品は、疾患の状態を改善できる化学物質である。本講義では、医薬品のもつ化学構造と、疾患改善のための機構を理解するために、医薬品の化学構造をもとにした分類とともに、薬学モデルコア・コアカリキュラムに示されている代表的8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）の疾患別の医薬品を中心に、それらの作用機序をその構造と関連付けて説明できる知識を修得する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
薬学専門教育科目	薬学で学ぶ生物学	<p>(概要) 生物学は生物を対象としてその存在様式や生命現象を理解する学問であり、本講義を通じて得られる教養は薬学部において学ぶすべての科目の基礎となる。本講義では、生物の概要や代謝、発生、体内環境、刺激の受容と反応、遺伝情報の複製・発現・調節、生殖と遺伝、生体防御、生物の起源・進化・系統、病の起源、植物の環境応答・多様性・分布、生態系と環境などを学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 岩渕和久／3回) 生物と代謝とエネルギー、人間の進化と病の起源について学修する。</p> <p>(19 南彰／3回) 動物の発生・生物の体内環境・刺激の受容と反応について学修する。</p> <p>(3 染谷明正／2回) 遺伝情報について学修する。</p> <p>(18 名黒功／2回) 遺伝について学修する。</p> <p>(14 山地俊之／2回) 生体防御・生物の起源について学修する。</p> <p>(8 宮本智文／1回) 植物の環境応答について学修する。</p> <p>(23 杉本幸子／1回) 植物の多様性と分布について学修する。</p> <p>(16 松川岳久／1回) 生態系と環境について学修する。</p>	オムニバス方式
	生化学Ⅰ	<p>医療によって人間を正常から逸脱した「異常」な状態である病気や怪我から健康な状態に戻すためには、先ず「正常(健康)」を理解しなければならない。生化学は生命現象を引き起こす目には見えない生体分子の役割についてその構造を理解し、身体の中で行われる反応である代謝を理解する授業である。本講義では、生体の中にはどのような分子があるかを体系的に修得することを目的とする。アミノ酸・タンパク質の構造と特徴・ペプチド結合、タンパク質の精製・分析方法、酵素の特性・役割、酵素反応速度論、酵素の阻害様式・酵素活性の調節機構、糖質の種類・構造・性質・役割、代表的な多糖(複合多糖)の構造と役割、脂質の分類・構造の特徴・性質・役割、生体膜の構造の特徴・性質・役割、膜輸送を担うタンパク質の構造の特徴・性質・役割、核酸の構造と核酸分析、ビタミンの特徴とその機能、水と無機質の生体における動態(酸塩基平衡、浸透圧)、シグナル伝達に關与する生体分子(ホルモン・サイトカイン)、遺伝子変異とタンパク質異常と疾患等について学修する。</p>	
	生化学Ⅱ	<p>(概要) 医療によって人間を正常から逸脱した「異常」な状態である病気や怪我から健康な状態に戻すためには、先ず「正常(健康)」を理解しなければならない。生化学は生命現象を引き起こす目には見えない生体分子の反応を学ぶ学問である。本講義では、生体が物質をどの様に体内に取り込み、どの様にして生体分子を作り、不要となった分子を処理し、生きるために必要なエネルギーを得ているかの代謝反応を体系的に学修することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 岩渕和久／11回) 代謝・エネルギーの基礎と概要、解糖・発酵、糖新生、クエン酸回路、酸化リン酸化(電子伝達系とATP産生)、ペントースリン酸回路、グリコーゲン代謝と血糖の調節、ホルモンによる糖・脂質代謝調節、ヌクレオチド代謝、エネルギー状態の変化による糖・脂質・アミノ酸の代謝変化について学修する。</p> <p>(34 大野祐介／4回) 脂肪酸の生合成とβ酸化、コレステロールやグリセロ脂質の生合成・分解と調節機構、アミノ酸の合成・分解及びアミノ酸由来の生体分子の代謝について学修する。</p>	オムニバス方式
	生理解剖学Ⅰ	<p>生理解剖学は、人体を構成する要素(細胞、組織、器官)の働きを解き明かす学問である生理学と、解剖を通して形態の意味を解き明かす学問である解剖学の両者を併せ持つ学問である。本講義では、人体の成り立ちを細胞、組織、器官レベルで理解し、人体の正常な構造と機能、及びその調節機構の基礎知識を修得するとともに、ヒトの生命活動が医薬品を含めた多くの有機化合物が關与する生化学的反應によって営まれていることを学修する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学専門教育科目	生物系薬学	生理解剖学Ⅱ	人体の病的状態を薬で予防・改善する学問である薬学を理解するためには、まずは正常な人体の仕組みを知る必要がある。本講義では、正常な各要素（細胞、組織、器官）の構造と機能を理解するとともに、各要素が相互に連携しながら人体全体として調和のとれた調節がなされ、恒常性が維持されていることを理解する。薬理学、病理学、病態解析学、臨床検査学、薬物治療学など人を意識した薬学全般の知識を理解するために基盤となる生理解剖学の知識を修得する。	共同
		細胞生物学	ヒトを含めたほぼ全ての生物は細胞という単位を基本として生命活動を営んでいる。細胞生物学は、個々の細胞内及び細胞間で生じる現象について主に分子レベルの視点を基礎として理解する授業である。本講義では、細胞の構造、機能、応答、相互作用などを学ぶことで、生命の成り立ちについて知るとともに、薬学で必要となる薬の作用がどのような細胞機能を調節することで発揮されるのかについて、具体的な疾患との関連を含めて理解する。	共同
		微生物学	私たちの周りには目に見えなくても非常に多くの微生物が存在している。そのうち一部は私たちに対して病原性を示し、中には致死性の病原体も存在する。いわばヒトの歴史は病原体との戦いの歴史と言える。本講義では、病原性を有する細菌やウイルスを中心に、微生物の分類やそれぞれの特徴的な構造、増殖を含めた生活環及び病原性に関する基本的知識を修得する。また病原微生物に対する対応として、感染経路、検出法、治療薬、消毒・滅菌法に関する基本的知識を修得する。	共同
		分子生物学	生物個体及びそれを構成する細胞を物質的な視点で捉えようと、核酸、糖、アミノ酸などの基本単位が多数連なって構築される機能的な分子が主要な役割を果たしていることがわかる。本講義では、このような分子の働きがいかにして生命活動につながっているのかを理解する授業である。現在使われている薬が標的とする物質的対象もほとんどの場合が個々の分子であり、分子と生命活動の関わりを学ぶことで、疾患の発症とその薬物治療の理論的背景について学ぶことができる。	共同
		免疫学	免疫とはいわば自己と非自己を峻別し、非自己である病原微生物等を排除する機構である。この恒常性の維持機構により、ヒトをはじめとする生物は、病原体が存在している環境においても生存してきた。一方この精巧なシステムに異常を来すと、様々な疾患を引き起こすことも知られている。本講義では、まず免疫応答の基本的なメカニズムを組織・細胞・分子レベルで学習することで、免疫がいかに精巧に非自己を認識しているか理解する。さらに免疫が関与する様々な疾患、及び免疫を利用したワクチンや抗体利用法についてその概要を理解する。	共同
		衛生化学Ⅰ	本講義では食品に含まれる栄養素や機能性食品に関する基礎知識を修得するとともに、食品や栄養素の適切な摂取管理を行うことが、人々の健全な生活の維持に貢献できるという視点で学修を行う。さらに食品や栄養素にまつわる人の健康の維持・増進、疾病の予防・治療に関する専門的な知識・技能を修得し、これに基づいた食品や栄養素の摂取に係る課題の発見、その解決策の策定を行い、その適切な実施を図れるようになるための知識を修得する。	共同
		衛生化学Ⅱ	我々は生活の中で微生物や化学物質など環境中の化学的要因、物理的要因、生物学的要因にさらされている。微生物や化学物質などの生体への有害作用を回避し、それらを適正に使用できるようになるために、微生物や化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する必要がある。本講義では、これらの環境因子による健康影響に関する専門的な知識・技能を修得し、環境要因に基づく解析により健康被害の防止に係る課題の発見、その解決策の策定を行い、適切に実施ができる知識を修得する。	共同
		公衆衛生学	公衆衛生の向上、より良い生活環境の保全・維持に貢献するために、生活環境及び生活習慣と疾病との関係、環境汚染物質の成因・汚染防止・汚染除去等に関する基本的知識を修得し、改善への展開・応用ができる技能を身に付けることで、さまざまな疾病や健康被害が起こる社会的な背景や要因を的確に解析することで、薬剤師として健全な社会の維持に貢献できる。本講義では、保健統計、疫学的手法及び感染症対策に関する専門的な知識・技能を修得するとともに、現在の我が国や世界の公衆衛生に関する状況を把握し、これからの疾病や健康被害に対する解決策を策定し、適切な実施を図るための力を涵養する。	共同
医療薬学	薬理学Ⅰ	薬剤師として医薬品と関わる際に、その薬効に基づいて適正な使用を可能とするために必要な薬理作用に関する基礎知識を修得する。本講義では、薬物の標的分子（作用点、作用部位）の分類と特徴、標的分子に達した際の薬物の作用発現様式の分類と特徴、薬物投与後の生体内での薬物の運命（吸収、分布、代謝及び排泄）、薬物の副作用発現のメカニズムや薬物反応における遺伝的素因などを学修する。さらに、医薬品開発における非臨床試験の位置付けについても学修する。	共同	
	薬理学Ⅱ	薬剤師として医薬品と関わる際に、その薬効に基づいて適正な使用を可能とするために必要な薬理作用に関する基礎知識を修得する必要がある。本講義では、末梢神経系、特に自律神経系の機能を学修する。自律神経系の支配器官の機能障害と連関した疾患の発症機構を学修し、それら疾患に対する薬物治療に用いる薬物の適応根拠を理解するために、自律神経系作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬などの作用メカニズムと有害反応の発現様式を学修する。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学専門教育科目	医療薬学	薬理学Ⅲ	薬剤師として医薬品と関わる際に、その薬効に基づいて適正な使用を可能とするために必要な薬理作用に関する基礎知識を修得する必要がある。本講義では、中枢神経系の機能制御メカニズムとその機能障害に関連した疾患の発症機構を理解し、それら疾患に対する薬物治療に用いる薬物の適応根拠を理解するために、抗うつ薬、抗不安薬、全身麻酔薬、鎮痛薬などの中枢神経系作用薬の作用様式や有害反応の発現機序、さらには疾患への適用根拠を学修する。	共同
		病理学	臨床において最適な医療を提供するためには、人体に生じる種々の「異常」すなわち病的状態について、その原因や機序を理解する知識が必要である。症状や徴候、病態を論理的に分類・把握することができることで、病態的確なアセスメント、治療の意義や目的を正しく理解することが可能となる。本講義では、解剖学や生理学で学んだ人体の正常の構造や機能に関する知識をもとに、人体の病的状態についての基本的な知識を修得する。さらに、その病的変化の様相、機序の理解に基づいて、各種疾患の病因・発生機序を病理学的（形態学的）見地から比較し、系統的に理解する。	
		病態解析学	（概要）臨床検査を駆使して的確に病態を評価することは、診断・治療・疾病の経過観察に必須である。病態評価に用いられる臨床検査項目が増加の一途を辿る中で、病態生理（身体機能の状態）を正しく理解し、客観的な検査データと結びつける能力が適切な医療の実践に不可欠である。本講義では、重要な疾患の病態生理を理解し、チーム医療の中で適切な薬物治療について討論するための基本的な知識を修得する。 （オムニバス方式／全15回） （12 宮崎 哲朗/8回） 免疫、炎症・アレルギー系、循環器系、呼吸器系、消化器、内分泌・代謝疾患について学修する。 （6 田部 陽子/4回） 病態解析学概論（症候と疾患、病態）、血液・造血管疾患、悪性新生物について学修する。 （27 里 史明/3回） 腎・泌尿器系疾患、感染症について学修する。	オムニバス方式
		臨床検査学	臨床検査学は、すべての疾患の診断・治療に不可欠な情報を提供する臨床検査を通して病態の理解を導くEvidence Based Medicineである。臨床検査値を適切に判読・解釈することは、的確な医療を実践する第一歩となる。代表的な症候の発現や病態が発症するメカニズムと、臨床検査において異常値が発現するメカニズムとの関連性を理解し、多角的に分析することにより、身体の病的変化から疾患との関係性を考察する。薬物治療にあたって、いかなる検査値をどのように解釈して病態を考えるかを修得する。	共同
		薬物治療学Ⅰ	患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定及び医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療を提供することが薬剤師としての重要な役割の一つである。薬物治療では各疾患の病態及び個々の患者の特性を理解し治療を選択することが重要である。本講義では、免疫・炎症・アレルギー及び血液・造血管系における代表的疾患の病態生理並びに薬物治療の実際を学修し、その薬物治療に用いる医薬品の薬理作用及び病態に基づいた作用機序に関する基本的知識を修得するとともに、治療に必要な情報収集・解析及び医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。さらに医師がどのように患者を把握し治療を選択しているかについて理解するとともに、チーム医療の中で個々の患者に応じた適切な薬物治療を選択するための討論が可能となる知識を修得する。	共同
		薬物治療学Ⅱ	本講義では、消化器系、代謝・内分泌系における代表的疾患の病態生理及び薬物治療の実際を学修し、その薬物治療に用いる医薬品の薬理作用及び病態に基づいた作用機序に関する基本的知識を修得するとともに、治療に必要な情報収集・解析及び医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。さらに医師がどのように患者を把握し治療を選択しているかについて理解するとともに、チーム医療の中で個々の患者に応じた適切な薬物治療を選択するための討論が可能となる知識を修得する。	
		薬物治療学Ⅲ	本講義では、呼吸器系、中枢神経系及び皮膚・感覚器系における代表的疾患の病態生理及び薬物治療の実際を学修し、その薬物治療に用いる医薬品の薬理作用及び病態に基づいた作用機序に関する基本的知識を修得するとともに、治療に必要な情報収集・解析及び医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。さらに医師がどのように患者を把握し治療を選択しているかについて理解するとともに、チーム医療の中で個々の患者に応じた適切な薬物治療を選択するための討論が可能となる知識を修得する。	
		薬物治療学Ⅳ	本講義では、循環器系、腎・泌尿器、生殖器系疾患の病態生理及び薬物治療の実際を学修し、その薬物治療に用いる医薬品の薬理作用及び病態に基づいた作用機序に関する基本的知識を修得するとともに、治療に必要な情報収集・解析及び医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。さらに医師がどのように患者を把握し治療を選択しているかについて理解するとともに、チーム医療の中で個々の患者に応じた適切な薬物治療を選択するための討論が可能となる知識を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学専門教育科目	医療薬学	薬物治療学V	患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定及び医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画し、チーム医療に貢献する必要がある。本講義では、悪性腫瘍の定義、疫学、病理と診断、抗悪性腫瘍薬の薬理及び疾患の病態や薬物治療に関する基本的知識を修得する。抗悪性腫瘍薬による薬物治療の主な副作用と支持療法を各がん種の病態と主な薬物治療であるレジメンを通じて理解を深める。がん性疼痛や終末期医療と緩和ケア、薬物治療以外の放射線療法を学ぶことでチーム医療の一員となるよう総合的知識を修得する。	共同
		薬物治療学VI	近年、わが国では医療技術の高度化や易感染宿主の増加、国際化とともに、流行する感染症が大きく変化している。それだけでなく薬剤耐性菌の出現や新型コロナウイルスのような新興感染症の発生がさらに医療を複雑にしている。医療現場では、これらを勘案した上で、身体の様々な臓器・組織で起こる感染症に対して迅速かつ適切な治療を行う必要がある。感染症の薬物治療及び抗菌薬適正使用支援 (Antimicrobial stewardship; AS) に貢献できるようにするために、病原微生物に作用する医薬品の薬理及び疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析及び医薬品の適正使用に関する基本的事項を身に付ける。	
		臨床薬物動態学	薬物の薬理作用の強さは、一般に作用部位での濃度と時間で決まる。多くの場合、薬物を作用部位に直接適用することはできないため、薬物は製剤化された医薬品として適用され、製剤から体内に移行した薬物が作用部位に到達する。薬理作用の強度や持続時間を最適化するためには、薬物が生体に適用されたのち、薬物が吸収、分布、代謝、排泄される過程を理解することが重要である。本講義では、医薬品を投与した後に薬物が生体内を巡る機序とその解析理論を修得することにより、最適な投与経路、投与方法を提案し、個々の患者に最適な薬物療法を実践するための能力を身に付ける。	共同
		病態評価学	適正な薬物治療の在り方を考えることができるようになるため、特に身体機能全般に関わる調節機構の病的変化について大要を理解し、その原因及び結果までも視野に置いて、考察できることが重要である。病態を正しく評価することは正しい治療を選択することに直結する。本講義では、診断学の基礎を修得した上で、個々の疾患に対する診断評価方法を理解し、医師がどのように患者を把握し治療を選択しているかについて理解する能力を養う。さらにチーム医療の中で、疾患のみならず個々の患者の特性を踏まえた病態評価、治療選択を行うためのグループ討論についても実践する。	
		セルフメディケーション実践	薬局・ドラッグストア等におけるセルフメディケーション支援とそれに伴う一般用医薬品 (OTC医薬品) の販売は、厚生労働省が進める「かかりつけ薬局」での医療機関と連携した、医療用医薬品との一元管理業務に係わる薬剤師としての重要な職務となっている。薬剤師は、顧客からの相談に応じ、必要に応じて受診勧奨を行い、顧客の状況に応じた最適な健康食品やサプリメント、要指導医薬品・OTC医薬品を選択、提案し、医薬品適正使用や健康管理についての情報提供と助言を行う必要がある。本講義では、適切な薬物治療及び地域の保健・医療に貢献できるようになるために、健康食品、サプリメント、OTC薬及びセルフメディケーションの支援に関する基本的知識を修得する。併せて薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を修得する。	
		医薬品情報学	(概要) 医療における医薬品情報は、人の生命に直結する意思決定に使用されるものであり、適正な薬物療法を提供するための基盤となる。個々の患者に対する医薬品適正使用を確保するためには、患者情報の収集、評価も必須となり、その提供・発信に責任を持つためには、医薬品情報及び患者情報を収集、解析、評価、応用、創生することの重要性を認識し、必要とされる知識・能力を有することが不可欠である。本講義では、医療における意思決定に必要な医薬品情報及び患者情報に関わる事項を理解し、医薬品開発への応用、薬物投与設計の立案及び臨床上の問題解決を行うための基本的事項を学修する。 (オムニバス方式/全15回) (20 高柳理早/11回) 医薬品のライフサイクルと医薬品情報、医薬品情報の情報源と収集、医薬品情報の解析と評価、患者情報について学修する。 (22 西村友宏/2回) 医薬品情報の応用と創生 (医薬品情報の読み解き方) について学修する。 (4 山田安彦/2回) 医薬品情報の応用と創生 (医薬品の比較・評価と投与設計) について学修する。	オムニバス方式
		医薬品安全性学	薬剤師は医療の担い手として、医薬品の適正使用を促し、医療安全を確保するために積極的に関わり、患者の安全確保に幅広く貢献することが求められている。医薬品に関する科学的根拠に基づく情報を総合的に分析してその有効性と安全性を客観的に評価することも重要である。本講義では、患者安全のための医薬品の適正使用、副作用の早期回避、院内感染防止など、医薬品の安全管理を推進するために、医療安全における薬剤師の役割を理解し、医療の質向上に向けた知識、技能、態度を修得する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学	地域医療薬学	本講義では、国民の健康管理・医療安全における薬剤師の役割を理解し使命感を身に付けることとあわせて社会の仕組みを理解し、人・社会(地域)と薬剤師の関わりを理解する。国民の生活圏たる地域の視点から、適切な薬物治療及び地域での保健・医療・福祉に貢献できるようになるために、保険調剤、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。本講義は千葉県薬剤師会と連携して、より実践的な講義カリキュラムを構築し、提供する。	共同
	臨床漢方治療学	漢方医学は日本で独自に発展した東アジア伝統医学であり、患者の病態を把握するために「証」という概念が存在する。その「証」を把握するためにいくつかの基礎理論が存在し、また四診(望診・聞診・問診・切診)といわれる独自の診察法が存在する。本講義では、漢方医学を理解するため、その歴史を学修し、さらに「証」とは何であるかを学び、あわせて西洋医学との診断プロセスの違いについて学修する。四診については体験的に学ぶ機会を設ける。	
	臨床栄養学	医療の基本は栄養である。適正な治療を行うためには病態を知ることと栄養状態を把握することが重要である。栄養状態が悪いと薬物治療を含めた様々な治療に対する反応も悪く、有効な治療ができない。静脈栄養、経腸栄養は栄養管理の基本的技術であるが、これらが実施できなければ適正な栄養治療はできない。本講義では、臨床栄養学の基礎となる栄養管理及びマネジメントについて実際の症例を基に学修し、必要な基本的知識を修得する。	
薬学演習	基幹薬学演習	本演習は、薬学部における専門科目(薬品分析化学、薬品物理化学、分子生物学、生理・解剖学、薬理学、薬物治療学、薬剤学、創薬化学等)を理解するために必要となる物理学及び生物学の基本的知識のスキルアップを図る。	共同
	総合薬学演習Ⅰ	薬学専門教育科目に関する知識を総合的に整理して、薬剤師として必要な知識基盤を確固たるものにし、5年次に行われる病院・薬局実務実習で必要となる知識を確認する。そのために4年次までに学んだ薬学教育モデル・コア・カリキュラム及び本学独自カリキュラムにおける重点ポイントを総合的に復習し、弱点を強化し、基礎力の充実を図ることで、病院・薬局実務実習の基礎となる臨床現場に必要な「薬学の基礎的な専門知識」を修得する。	共同
	総合薬学演習Ⅱ	医療の高度化、多様化が進む中で医療の一翼を担う薬剤師の基本的な資質を身に付けるために、薬学教育モデル・コア・カリキュラムに関連する教科全般について、重要な知識を整理し、理解を深める。さらに薬剤師に求められる薬学関連情報の知識を統合し、薬物治療に貢献する医療の担い手となるために、医療人として臨床現場で必要となる疾患やその治療法に関する様々な知識だけでなく、医薬品の適正使用のために必要となる専門知識を修得する。	共同
薬学実習	研究入門	1年次後期の薬学基礎実習とともに、2年次以降の薬学実習科目、3年次以降の医療薬学基礎研究及び医療薬学実践研究を含めた薬学の研究活動に必要な能動的学習能力、及び基礎実験に関する知識・技能を修得する。知識としては実験・研究活動に必要な倫理、法制度面を含めた知識、技能としては器具操作を含めた個別実習、個別評価によるフィードバック及び適切な報告書作成、質疑応答等の研究活動に必要な技能を修得する。	共同
	薬学基礎実習	本実習では、植物からの成分抽出や医薬品の合成、クロマトグラフィーを用いた成分分離などの基礎的な実験を通して、2年次以降の薬学実習科目等で必要となる基本的な実験器具の操作方法、廃棄物の処理法、実験を安全に行うための注意事項等を学修する。さらに、3年次以降の医療薬学基礎研究及び医療薬学実践研究においても必要となる実験計画の立案方法、実験の記録方法、レポートの作成方法や、薬学の研究活動に必要な基礎的な知識・技能を修得する。	共同
	化学系実習Ⅰ	本実習前半は、天然生物活性物質の利用に関する基本的技術取得を目的に、茶葉に含まれるカフェインや民間薬や漢方処方中使用されるベルベリンの抽出、分離を行い、単離精製したカフェインやベルベリンについて各種スペクトルデータによる構造解析を行う。また日本薬局方に準拠したカフェインの確認試験、ベルベリンの定量分析及び物理的試験法のクロマトグラフィーによる試料混合物の分離を実施する。後半は、漢方処方とその構成生薬である日本薬局方収載生薬を理解することを目的に、薬草園にて栽培されている基原植物の観察を行い、その関連生薬を確認する。さらに実際の漢方処方にに基づき散剤、丸剤、軟膏、湯液を調製し、これらを通して漢方処方の調整法、構成と適用に関する理解を深めることを目的とする。	共同
	化学系実習Ⅱ	既存の医薬品の大半を占める低分子医薬品の物理化学的性質及びその製造法を理解することは、医薬品を開発する上で必要不可欠な知識である。本実習では、構造が簡単な低分子医薬品の合成を行うことにより、医薬品開発において重要な有機化学反応を起こすための操作、それらの反応の結果として得られた生成物の分離及び精製、それらの構造を確認する知識と技能を修得するとともに、これらの工程を安全に行うための知識と技能を修得する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学専門教育科目	薬学実習	化学系実習Ⅲ	化学系実習Ⅱで学んだ有機化学の基礎反応の実践を基に、創薬化学に必要な有機合成化学の知識と技能を学修する。本実習は、医薬品の構造とその受容体との相互作用を理解し、受容体に適した医薬品を設計するための知識と技能の修得を行う。実際に医薬品を合成し、その生体に対する作用を酵素反応を利用して確認することにより、医薬品設計及び医薬品の生体に対する機能発現における受容体との相互作用などの知識と技能を修得する。	共同
		生物系実習Ⅰ	本実習では、解剖学実験を通じて人体を構成する各要素（細胞、組織、器官）の正常な構造や機能を理解するとともに、生理学実験を通じて各要素が相互に連携しながら人体全体として調和のとれた調節がなされ、恒常性が維持されていることを理解する。人体解剖を見学・観察し、人体を構成する各器官の形態と構造について理解を深める。「人の死」をみつめることで、生命の尊厳と医の倫理について理解し、医療人として知識を探索し考察できる力を培う。動物実験における倫理的配慮や解剖生理学実験における基礎的技術を修得する。	共同
		生物系実習Ⅱ	本実習では、細胞の構成要素であるDNAとタンパク質についての基本的知識（生化学的性質、分光学的性質、構造など）を修得し、それらを取り扱うための基本的技能を身に付ける。酵素活性解析実験を通し、基本操作・技術及びデータ解析手法を学び、生化学Ⅰで学修した酵素に関する理解を深める。細胞を取り扱い、細胞内の変化を顕微鏡を用いて実際に観察することにより、細胞を用いた実験の基本操作・技術を修得し、細胞生物学の講義での学修内容の理解を深める。	共同
		生物系実習Ⅲ	微生物学や免疫学は薬学領域において重要な分野であり、薬剤師業務としての調剤での無菌操作や院内感染防止、研究現場における基礎研究や医薬品開発等、微生物学や免疫学は手を動かす実学としての重要性も持つ。本実習では、無菌操作や滅菌等、微生物を扱う際の基礎的な手技・知識を修得するとともに、細菌やウイルスの増幅や検査法、免疫細胞や補体の機能解析、抗体を用いた抗原検出を実際に行うことにより、病原体の性質や免疫の機能に関する知識を修得する。	共同
		生物系実習Ⅳ	本実習では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定及び医薬品情報に基づく有効性・安全性や治療ガイドラインを考慮した適切な薬物治療を実践するために、薬物の薬理作用や副作用について実際の観察を通して理解する。薬理作用の評価法と動物の取り扱い方、その背景にある倫理的問題について理解する。薬物の濃度に関する薬物動態学をコンパートメントモデル実験やシミュレーションを通して深く理解する。薬物の血中濃度推移の代表的解析方法であるコンパートメントモデルを修得し、薬物投与設計に応用する能力の涵養を目的とする。生理学的薬物速度論を用いてクリアランスの変動が血中薬物濃度に及ぼす影響をシミュレーションし、個体差及び薬物間相互作用の要因と影響を理解する。	共同
		生物系実習Ⅴ	食品に含まれる栄養素や機能性食品に関する基礎知識をもとに、適切な摂取管理を行うことにより、健全な社会の維持に貢献できるという視点で実習を行う。また生活環境の衛生について、測定を通して状態の把握し人々に及ぼす影響について理解する。基本的な環境測定の手技や実験を通して学んでいく。衛生薬学・公衆衛生薬学の視点から、社会・集団において起こる疾病や健康被害の背景や要因を解析するための疫学的手法を修得し、これを的確に実施できるようにする。政府統計等のオープンソースデータの概要を確認し、簡単なデータ処理を行えるようにする。	共同
		生物系実習Ⅵ	薬物治療を実施するに当たって、疾病に対して適正な検査計画を立案し、効率的な検査項目の選択を行うことは必須である。近年では処方箋への臨床検査値の表示が大学病院を中心に開始され、調剤薬局においても一部の生化学検査が可能となり、医師とは異なる薬学的視点で病態を評価することが求められる。本実習では、病態解析の原則を理解したうえで、基本的な検査実施法を知り、エビデンスに基づいた臨床検査成績の科学的、系統的解釈、評価法を学ぶ。	共同
		物理系実習Ⅰ	容量分析により物質の存在量を決定する。所定の濃度の水溶液を調製し、濃度未知の水溶液の濃度を決定し、水溶液中に含まれる物質量を求める。高価な機器を使わずに色の変化を追跡することで定量できる経験を通して、分析化学の項目について理解を深める。医薬品分野における高速液体クロマトグラフィー（HPLC）の貢献は大きく、原料中不純物、製品中有効成分、代謝成分の分析など広範囲に用いられている。特に血中薬物濃度の測定では不可欠な実験手法である。本実習では、HPLCの原理と操作法、試料の調製、分離の機構、クロマトグラムの見方と検量線法による濃度決定を行うことにより、実践的な機器分析法を修得する。	共同
		物理系実習Ⅱ	医薬品として有効成分（原薬）がそのまま使用されることは稀であり、その効果を最大限に発揮させるためには、原薬の物理化学的特性を把握し、錠剤や注射剤などの最適な剤形に仕上げる製剤化技術が必要となる。本実習では、医薬品の材料となる原薬及び添加剤の物理化学的な性質を適切に評価・解析する方法、製剤化と品質評価の意義と方法、製剤の機能性を高める薬物送達システム（DDS）の技術と方法を体得し、医薬品創製に必要な知識と技能を身に付ける。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
薬学専門教育科目	アドバンスト・コース	高齢者薬物治療学（老年医学）	患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定及び医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療を提案し、チーム医療に貢献することが薬剤師の職能として期待されている。高齢化社会を迎えた現在、高齢者における薬物動態の加齢変化に基づく薬物感受性の増大や服用薬剤数の増加（多剤併用）による有害事象の増加が懸念され、薬剤師によってその防止などの対応が求められている。本講義では、地域医療も含めたチーム医療において薬剤師としての専門性を発揮しより質の高い医療が提供できるよう、高齢者の薬物治療に必要とされる実践的な知識と技能を講義及び症例を用いた演習により修得する。	共同
		救急・集中治療・周術期薬物治療	患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定及び医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療を提案し、チーム医療に貢献することが薬剤師の職能として期待されている。本講義では、集中治療・周術期等における重症・ハイケア患者に対するチーム医療において薬剤師としての専門性を発揮しより質の高い医療が提供できるよう、救急・集中治療・周術期における薬物治療に必要とされる実践的な知識と技能を講義及び症例を用いた演習により修得する。	共同
		周産期・小児薬物治療	患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定及び医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画し、チーム医療に貢献する必要がある。本講義では、周産期・小児科領域のチーム医療において薬剤師としての専門性を発揮しより質の高い医療が提供できるよう、周産期・小児領域領域の専門・認定薬剤師に求められている知識や社会的ニーズを理解し、周産期・小児科領域における薬物治療に必要とされる実践的な知識と技能を講義及び症例を用いた演習により修得する。	共同
		精神神経系薬物治療	患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定及び医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画し、チーム医療に貢献する必要がある。本講義では、精神神経系領域のチーム医療において薬剤師としての専門性を発揮し、より質の高い医療が提供できるよう、精神神経系領域の専門・認定薬剤師に求められている知識や社会的ニーズを理解し、精神神経系領域の薬物治療に必要とされる実践的な知識と技能を身に付ける。	
		アドバンスト実務実習（病院）	本実習では、病院・薬局実務実習での経験を踏まえ、薬剤師の専門性が求められる各種疾患（がん、感染症、循環器系疾患、精神神経系疾患、糖尿病、老年医学）に関して病態や重症度に関する適切な患者情報を収集・評価し、個々の薬物療法の問題点の評価に基づき問題解決し、個別最適化を図ることを実践学修する。また薬剤師が医療現場でどのようにそれら疾患の治療を支援し、治療薬の適正使用に介入しているかを実践する。また種々の症候、臨床検査値、画像診断等により問題となる身体の病的変化や病態を理解し、適切な薬剤の情報提供や疑義照会を行う、臨床推論を実践する。	
		アドバンスト実務実習（薬局）	本実習では、病院・薬局実務実習の経験を踏まえ、地域包括ケアシステムの構築が進む中で健康管理・医療安全に対する国民、社会のニーズに応えられる高い資質及び使命感を持つ薬剤師になるために、地域連携薬局領域、専門医療機関連携薬局領域、在宅医療領域、セルフメディケーション領域等で地域医療に貢献している保険薬局において、より専門的な内容で必要な知識・技能・態度を修得する。本講義は千葉県薬剤師会と連携して、より実践的な講義カリキュラムを構築し、提供する。	
		海外実務研修	本研修では、グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有し、日本の臨床現場において新しい薬剤師職能の開発ができる専門性の高く広い視野を持った臨床薬剤師を育成するために、先進的な臨床薬学教育が展開されている海外での講義の受講や臨床現場での実地体験などを行う。本研修を通じて、国内での薬局・病院実習を通して学んだ薬剤師の役割と海外における薬学教育や薬剤師の役割の違いを理解し、国際的な視野を持った薬剤師の育成を目標とする。	共同
		海外応用研修	本研修では、グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有し、国際化の流れに対応できる広い視野を持った創薬研究の専門家となるために、医療薬学基礎研究で修得した薬学基礎研究の知識・研究技能を応用して、先進的な医学・薬学研究が展開されている海外の大学等の研究室において研究活動に参画する。本研修を通じて、自身の探求心を高めるとともに、将来、国際的視野に立った研究マインドを身につけた薬学研究者の育成を目標とする。	共同
		専門薬剤師特論Ⅰ	本講義では、臨床現場における病院・薬局実務実習での経験を踏まえ、さらに高度な対応が要求されるがん医療に関して、がんの発生や転移、薬剤耐性等の基礎知識や医療安全におけるレジメン管理、職業曝露など専門性の高い薬剤師業務に必要な知識・技能・態度を修得する。医師、看護師、その他の医療従事者とともにがんの終末期の病態と治療やがんゲノム医療等最新のがん医療を理解することを通してチーム医療における薬剤師の専門性を理解する。	共同
		専門薬剤師特論Ⅱ	本講義では、臨床現場における病院・薬局実務実習での経験を踏まえ、さらに薬剤師の専門性が求められる感染症治療に関して、その病態や重症度に関する適切な患者情報を収集・評価し、個々の薬物療法の問題点に基づき問題解決を実践し、個別最適化を図るための知識を修得する。また薬剤師が医療現場でどのように感染症の治療を支援し、抗菌薬の適正使用に介入しているかを臨床例から学び、抗菌薬適正使用に関する知識を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
薬学専門教育科目	専門薬剤師特論Ⅲ	本講義では、臨床現場における病院・薬局実務実習での経験を踏まえ、さらにチーム医療での対応が要求される循環器疾患、特に心不全、虚血性心疾患に関し、より専門性の高い薬剤師業務を遂行するのに必要な知識・技能・態度を修得する。さらに病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニックパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を学修し、医師、看護師、その他の医療従事者とともに活躍できる能力を修得する。	共同
	専門薬剤師特論Ⅳ	臨床現場において、薬剤師は患者の訴え（症候）から考え得る身体の病的変化や病態の一つひとつを体系的・分析的アプローチで理解し、患者の情報や検査結果を総合的に考え、緊急度・重症度の判断につなげる考え方を身に付け、受診勧奨、適切な薬剤の情報提供や疑義照会ができること、いわゆる臨床推論能力が求められる。本講義では、臨床推論能力を高めるために、必要な代表的な症候、一般的な臨床検査、画像診断に関する基本的知識を修得する。	共同
	救命救急・災害医療	本講義では、急性期医療の現場における多職種連携・協働の中で、薬剤師が専門性を発揮し、より質の高い医療を提供するうえで、求められる薬剤師の役割を理解する。加えて地震や列車事故などの災害医療における、DMAT（災害医療派遣チーム）の活動や、災害発生時における病院・薬局の役割と薬剤師の活動、地域の医薬品供給体制・医療救護体制を学修し、災害時の地域住民の生活及び自立支援に薬剤師として貢献するために必要となる知識を修得する。	
	医療現場におけるヒューマニズム	本講義では、医療の担い手として、患者の生命の尊さを理解し、患者に寄り添った医療を実現するために、ヒューマニズムの観点から医療倫理の知識を修得する。現代医療の中で生命の尊さに係わる倫理的な問題を学修し、医療現場の薬剤師の使命を医療倫理の面から理解する。さらに様々な医療従事者とともに、患者や生活者の気持ちに配慮したチーム医療を実現するために、求められる薬剤師の役割・態度について学修する。生命の尊さと医療の関わりに関する課題をグループ討議することにより、倫理或いはヒューマニズムの観点から自らの考えを表現する能力を修得する。	共同
	健康食品学概論	食事・栄養の問題は、健康を維持あるいは増進して生活する最も大切な領域の一つである。食生活において過不足しているものを補正する目的で、適切な健康食品・サプリメントなどを利用し、健康を維持するセルフケアの考えが定着しつつある。しかし、これらに頼りすぎて逆に健康を損なう可能性もある。本講義では、栄養と健康食品・サプリメント、健康食品・サプリメントの機能表示、有用性、安全性、医薬品との相互作用に関する知識を修得する。	
	医療通訳英会話	社会のグローバル化や海外からのインバウンド増加により、医療機関を受診する外国人が増加しており、医療に関する通訳の重要性が増している。本講義では、前半で、医療通訳に必要な通訳技術を学び、通訳実技の訓練を行う。医療通訳に必要な技術的側面として、①ノートテイキング、②逐次通訳、③情報収集の3点に注目し、これらの方法を理論的に学修する。後半では、この理論的学修を踏まえて、通訳実践の訓練を行う。具体的には、科目問診、診療科、検査等の場面別に模擬的な通訳演習を行うことにより、医療通訳業務の実際、及び医療通訳者が果たすべき役割を学修する。	
	医薬品等に関わる規制調和と国際標準	学生は卒業後、医療人として薬局・病院薬剤師だけでなく、製薬企業や行政等様々な職種に携わる可能性がある。製造販売業・製造業の許可から、医薬品開発の流れ、販売後の医薬品に関する制度や規則の在り方を理解しておく必要がある。また医薬品市場の流れと原理を理解するために、医薬品の売買、公正な競争を通して行う市場創造・拡大のための活動・プロセスについての知識を修得するとともに、国際化した現在では、製造や販売の形体、輸出入における可否、承認等の制度の国際的共通化、特許、それらを扱う国際機関のことなど、グローバルな視点が必要であり、それらを身に付けることを目標とする。	
	食品栄養学	ヒトの一生のライフステージに見合った食物摂取は健康の保持・増進に重要である。同じライフステージでも個人差があり、身体状況や運動や労働の程度によっても異なってくる。本講義は、人間が健康に生活していくために必要な食品に関して、その主要成分と栄養価やそれらの特性と機能性について学修し、遺伝子組み換え食品や機能性食品などの持つ有益性と危険性、健康状態を改善するための食生活などを中心に、科学的知見に基づいた正しい知識と、その知識を他者に適切に伝達できる実践的能力を修得する。	
実務実習	医療プロフェッショナルリズム入門Ⅰ	薬剤師という医療専門職としてのマインドを早期から涵養することを目的として、実際の保健・医療あるいは福祉等に関わる現場を訪問し、医療・介護行為や多職種連携の実際を見聞・体験する。また救急救命・心肺蘇生術の実習を行う。現場訪問の前には、スモールグループディスカッションを含めた多職種連携教育を行い、医療を支える職種の理解と医療人としての心構えについて学修する。これらにより、医療・福祉・介護における薬剤師の役割を理解し、薬学を学ぶための基盤を養う。さらに医学部、医療看護学部との合同多職種連携ワークショップにより医療における薬剤師の役割を学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
薬学専門教育科目	医療プロフェッショナリズム入門Ⅱ	健康を取り巻く地域が抱える課題の要因と現状の因果関係について、地域住民や患者の視点から仮説を立て、フィールドワークを通じて仮説の検証とスモールグループディスカッションによる解決策の検討を行う。また医療現場における様々な課題の抽出と問題解決に際して、薬剤師が基礎薬学や医療薬学、臨床薬学の知識・技能をどのように活用しているのかについてPBL形式で学修する。これらにより、修得すべき基礎薬学、医療薬学及び臨床薬学の関連性と重要性を理解し、薬学の視点から思考的に問題解決できる能力を修得する。本講義は千葉県薬剤師会及び医療看護学部等と連携して、より実践的な講義カリキュラムを構築し、提供する。	
	病院・薬局実習事前学習	処方箋の意義や調剤の流れ、疑義照会の意義や方法、調剤方法や調剤時の留意点、調剤に必要な情報の収集と投薬時の指導事項と注意点、配合変化や調剤事故とその対応等について学修する。フィジカルアセスメントやセルフメディケーションなどの薬剤師に求められる職能に関する基本的な知識・技能・態度についても学修する。さらに代表的8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）の症例を中心に、薬物治療学と基礎薬学・医療薬学などの基本的知識を統合し、薬物療法に関する実践的能力を修得する。	共同
	チーム医療Ⅰ	患者を中心にした最適な医療を実践するためには、多職種の医療専門職との協働（チーム医療）が不可欠である。医療系学部と6つの大学附属病院と連携した臨床教育が本学の大きな特徴となっている。このような環境のもとに、チーム医療の構成員としての薬剤師の専門性を活かし、積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように、医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割をはじめとしたチーム医療における薬剤師の仕事、薬剤師としての医療への貢献等を講義だけでなく、シナリオをもとにケーススタディ（PBL形式）を行い理解する。	
	チーム医療Ⅱ	チーム医療Ⅰにおいて修得したチーム医療に必須の基礎知識を基に、臨床現場におけるチーム医療の目的・目標、患者の診療過程とそこに携わる職種、各職種の専門性、役割及び責任に関する相互関係について学修し、チーム医療における病院薬剤師及び薬局薬剤師それぞれの役割を理解するために、シナリオを用いたケーススタディ（PBL形式）により学修する。さらに医学部、医療看護学部との合同多職種連携ワークショップにより医療における薬剤師の役割を学修する。	
	病院・薬局実務実習	病院・薬局にて臨床実務実習を行う。病院薬剤師の業務に関する基本的知識、技術、態度を修得する。また薬剤師として薬局で活躍するための調剤、医薬品使用、処方箋の確認などの実践を修得する。病院・薬局に薬学教育モデル・コア・カリキュラムに定められている大項目「F臨床薬学」に定められている各中項目を臨床現場において患者や医療従事者と接することにより実践的に学修し、薬剤師として必要な知識・技能・態度を身に付ける。	
	医療薬学基礎研究	研究室・部門での学術研究を通して、研究を遂行する上で欠かせない倫理や基本事項を学修する。また研究課題を通して、研究背景、意義、実験内容などを理解・実践し、得られた結果について科学的根拠に基づいて考察することにより、直面する課題を解決する能力を涵養する。具体的には、研究テーマの背景・目的や問題解決のための研究手法を理解する能力を得るために、必要な学術論文の読み方、研究結果のまとめ方、そしてその結果の発表方法を修得する。	
	医療薬学実践研究	医療薬学基礎研究及び5年次の病院・薬局実務実習の経験を融合し発展させて、高度先進医療から地域医療にわたる医療現場での臨床研究能力を身に付ける。医療薬学基礎研究において培った研究手法と病院・薬局実務実習において学修したことを融合させ、研究論文を作成する。研究課題を通して、科学的根拠に基づいて問題を解決する能力を修得し、生涯にわたって問題解決能力を高め続ける技能・態度を修得する。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人順天堂 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
順天堂大学					順天堂大学				
医学部 医学科	140	-	665		医学部 医学科	<u>105</u>	-	<u>630</u>	臨時定員減員
スポーツ健康科学部 スポーツ科学科	0	-	0		スポーツ健康科学部 スポーツ科学科	0	-	0	令和3年4月 学生募集停止
					スポーツ健康科学部 スポーツマネジメント学科	0	-	0	令和3年4月 学生募集停止
					健康学科	0	-	0	令和3年4月 学生募集停止
					スポーツ健康科学部	600	-	2400	
医療看護学部 看護学科	220	-	880		医療看護学部 看護学科	220	-	880	
保健看護学部 看護学科	130	-	520		保健看護学部 看護学科	<u>160</u>	-	<u>640</u>	定員変更(30)
国際教養学部 国際教養学科	240	-	960		国際教養学部 国際教養学科	240	-	960	
保健医療学部 理学療法学科	120	-	480		保健医療学部 理学療法学科	120	-	480	
					診療放射線学科	120	-	480	
医療科学部 臨床検査学科	110	-	440		医療科学部 臨床検査学科	110	-	440	
					臨床工学科	70	-	280	
健康データサ 健康データサ	100	-	400		健康データサ 健康データサ	100	-	400	
イエンス学部 イエンス学科					イエンス学部 イエンス学科				
					<u>薬学部 薬学科</u>	<u>180</u>	-	<u>1080</u>	学部の設置 (認可申請)
計	1850	-	7505		計	<u>2025</u>	-	<u>8670</u>	
順天堂大学大学院					順天堂大学大学院				
医学研究科 医科学専攻(M)	60	-	120		医学研究科 医科学専攻(M)	60	-	120	
〃 医学専攻(D)	180	-	720		〃 医学専攻(D)	180	-	720	
スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 (博士前期課程)	61	-	122		スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 (博士前期課程)	61	-	122	
〃 スポーツ健康科学専攻 (博士後期課程)	10	-	30		〃 スポーツ健康科学専攻 (博士後期課程)	10	-	30	
医療看護学研究科 看護学専攻 (博士前期課程)	29	-	58		医療看護学研究科 看護学専攻 (博士前期課程)	29	-	58	
〃 看護学専攻 (博士後期課程)	12	-	36		〃 看護学専攻 (博士後期課程)	12	-	36	
保健医療学研究科 理学療法学専攻 (修士課程)	5	-	10		保健医療学研究科 理学療法学専攻 (修士課程)	5	-	10	
					診療放射線学専攻 (修士課程)	5	-	10	
					<u>国際教養学研究科 国際教養学専攻 (修士課程)</u>	<u>5</u>	-	<u>10</u>	研究科の設置 (認可申請)
計	362	-	1106		計	<u>367</u>	-	<u>1116</u>	

※医学部医学科の収容定員は令和10年度及び令和11年度(6年次まで学年進行した年度)の収容定員